Anritsu Advancing beyond

Beyond testing, beyond limits, for a sustainable future together

アンリツ株式会社

2025年2月

東証 プライム
証券コード：6754
https://www.anritsu.com

注　記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

Copyright© ANRITSU CORPORATION

目　次

1. 中期経営計画 GLP2026
2. 事業概要
3. 通信計測事業
4. PQA事業
5. 環境計測事業
6. 2025年3月期 第3四半期 連結決算概要

Appendix

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1.中期経営計画 GLP2026

1-1. 中期経営計画（GLP2023）レビュー

1-2. 中期経営計画（GLP2026）の基本方針

1-3. GLP2026とFY2030の目指す姿

1-4. 売上高･営業利益計画

1-5. 財務戦略

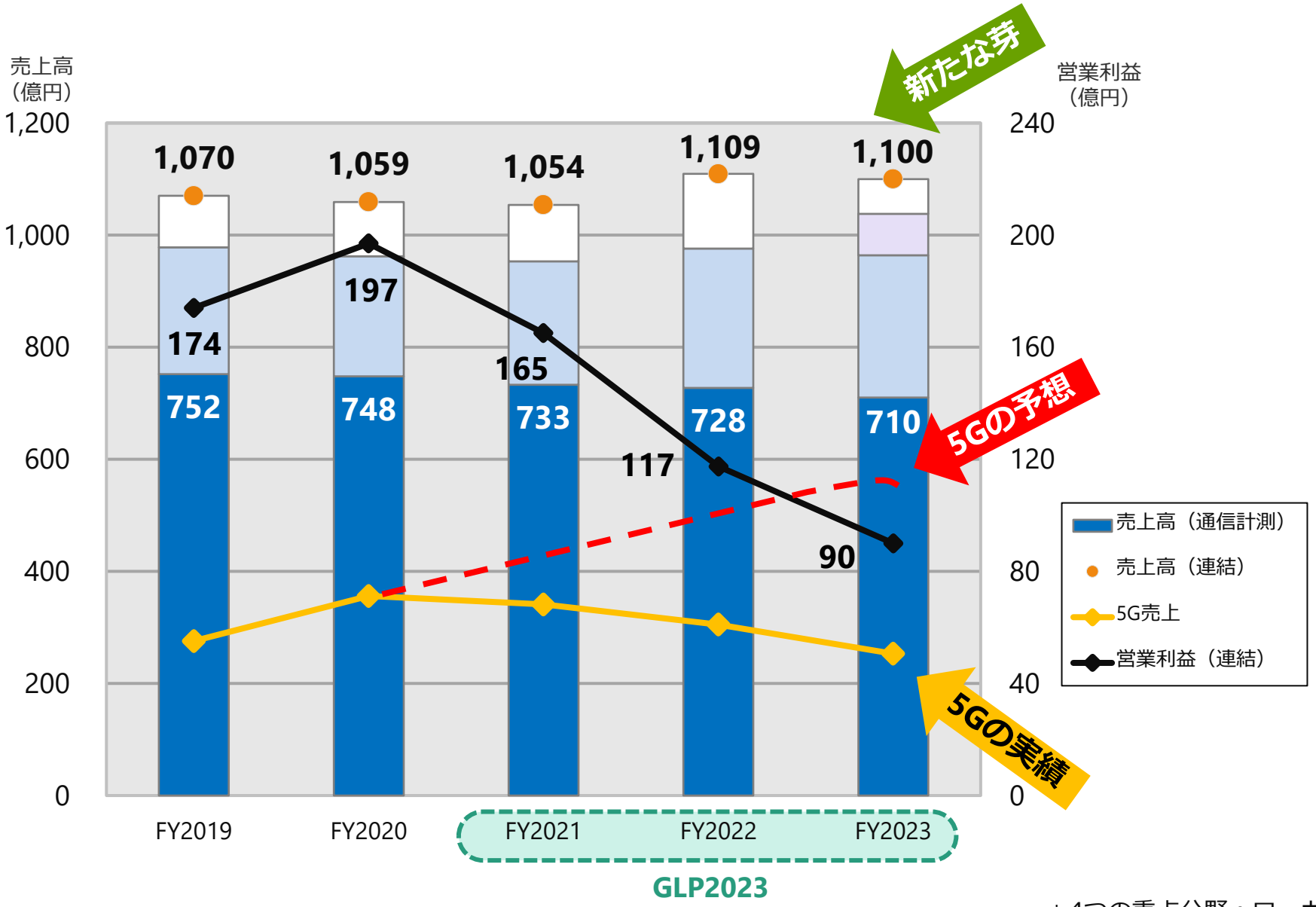
1-6. 人材戦略

1-7. 事業別GLP2026概要

1-8. サステナビリティ目標

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-1. 中期経営計画（GLP2023）レビュー



項目	成果
財務	売上1,100億円 営業利益90億円と 数値目標は未達も、 株主還元は計画通り実行 （配当性向：54%、 総還元性向：87%）
重点分野＊	高砂製作所のM&Aにより EV・電池試験市場へ参入
通信計測	5G市場の縮小と世界的な インフレ圧力が続いたが、 生成AIの急拡大による データセンタ高速化需要 を獲得
サステナビリティ	女性管理職比率：12.1% （1.3ポイント上昇）

＊4つの重点分野：ローカル5G、EV・電池、医療・医薬品、光センシング

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-2. 中期経営計画（GLP2026）の基本方針

1. 成長投資に400億円以上（M&A+設備投資）
2. ROE≧10%を安定的に達成する事業ポートフォリオの構築
3. 2026年度の営業利益の25%を通信計測以外で創出
4. 新領域ビジネスの人材強化、全社での人材育成体制を構築
5. 事業活動における資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現
6. 株主還元では配当性向50%以上を目指す

Copyright© ANRITSU CORPORATION

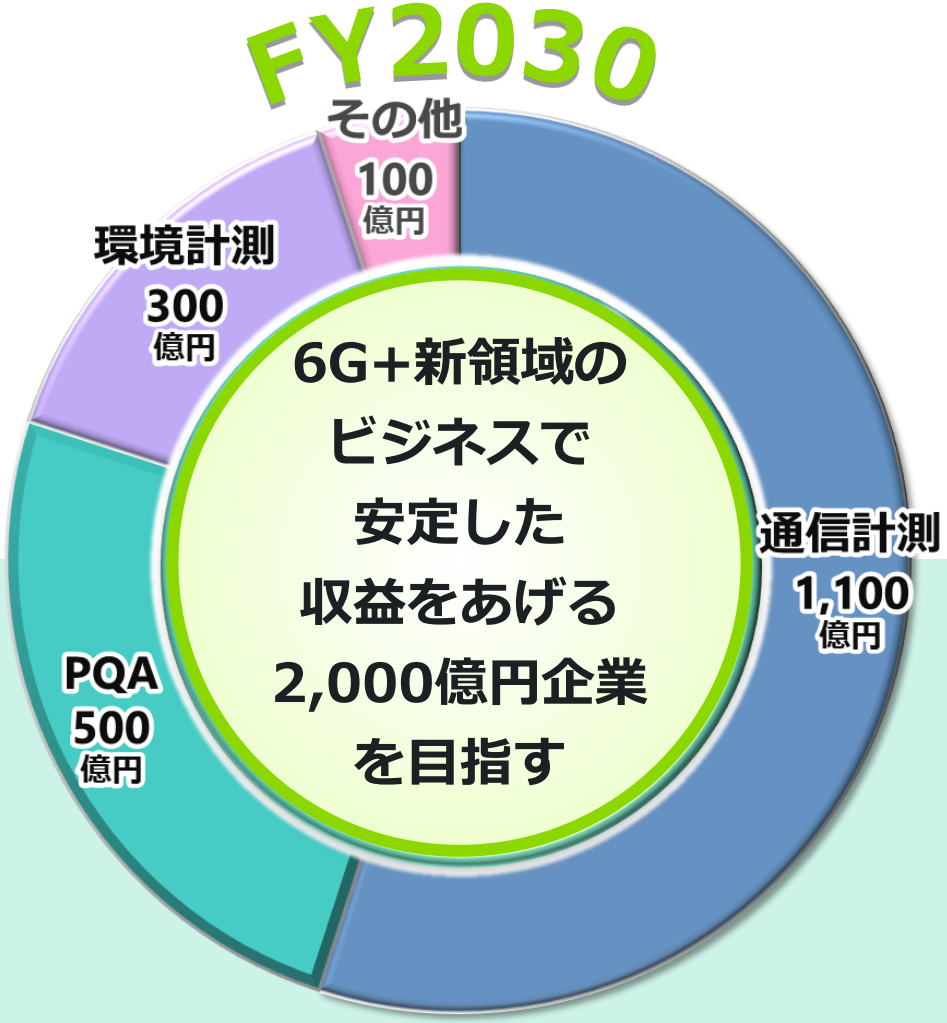
1-3-1. GLP2026とFY2030の目指す姿

Anritsu
Advancing beyond

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-3-2. FY2030の目指す姿



売上高 2,000億円

営業利益 400億円

営業利益率 20%

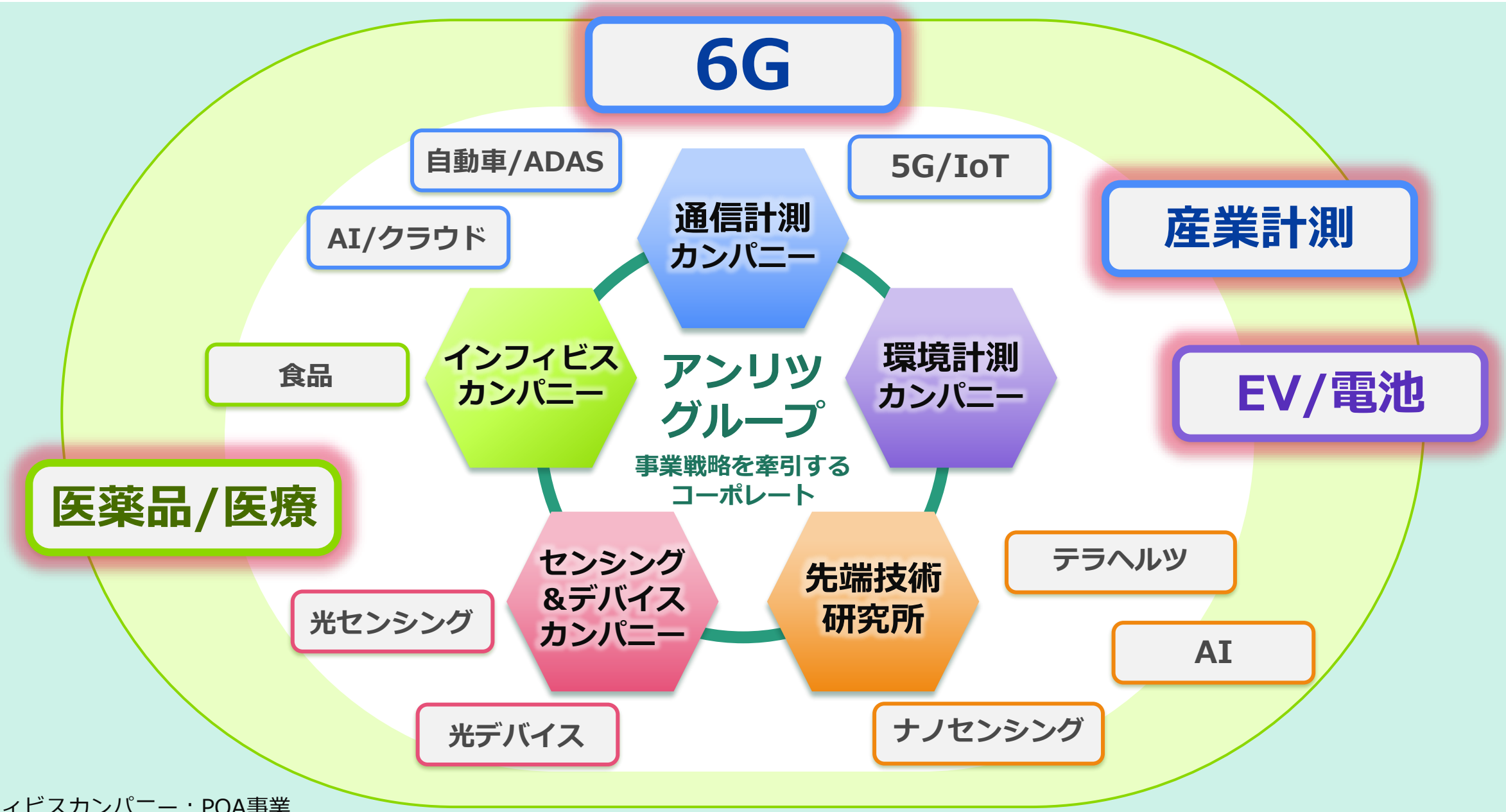
通信計測成長ドライバ
- 6G、IOWN
- 5G利活用
  自動運転、スマートシティ
  スマートファクトリー、
  メタバース、衛星通信
- O-RAN、V-RAN
- 生成AIによる
  ネットワーク高速化

PQA成長ドライバ
- 食品市場での
  グローバル事業拡大
- 医薬品市場への浸透
- AIを活用した
  品質検査ビジネス

環境計測成長ドライバ
- EV・電池、
  社会インフラの脱炭素化
- 産業DX、ローカル5G、
  スマートファクトリー
- 社会インフラのスマート化
- グローバル展開

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-3-3. GLP2026 6Gと3つの新領域ビジネス



*インフィビスカンパニー：PQA事業

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-3-4. 6Gと新領域ビジネスの成長をグループ横断で加速

6G

**6Gで先行。
要素技術、
キーデバイスで差別化**

- ビジネスオーナ：通信計測カンパニー
- 300GHz要素技術：先端技術研究所
- キーデバイス：センシング&デバイスカンパニー

EV/電池

**販売と製造で通信計測事業がグローバルに協力。
成長を加速**

- ビジネスオーナ：環境計測カンパニー
- 販売・製造協力：通信計測カンパニー

産業計測

通信計測事業と環境計測事業で通信以外の産業に汎用計測器を拡販

- ビジネスオーナ：通信計測カンパニー
- 販売協力：環境計測カンパニー

医薬品/医療

インフィビスとセンシング&デバイスは光センシング技術等を使い、医薬品、医療分野開拓

- ビジネスオーナ：インフィビスカンパニー
- 光センシング：センシング&デバイスカンパニー

*インフィビスカンパニー：PQA事業

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-4-1. 売上高・営業利益計画（1/2）

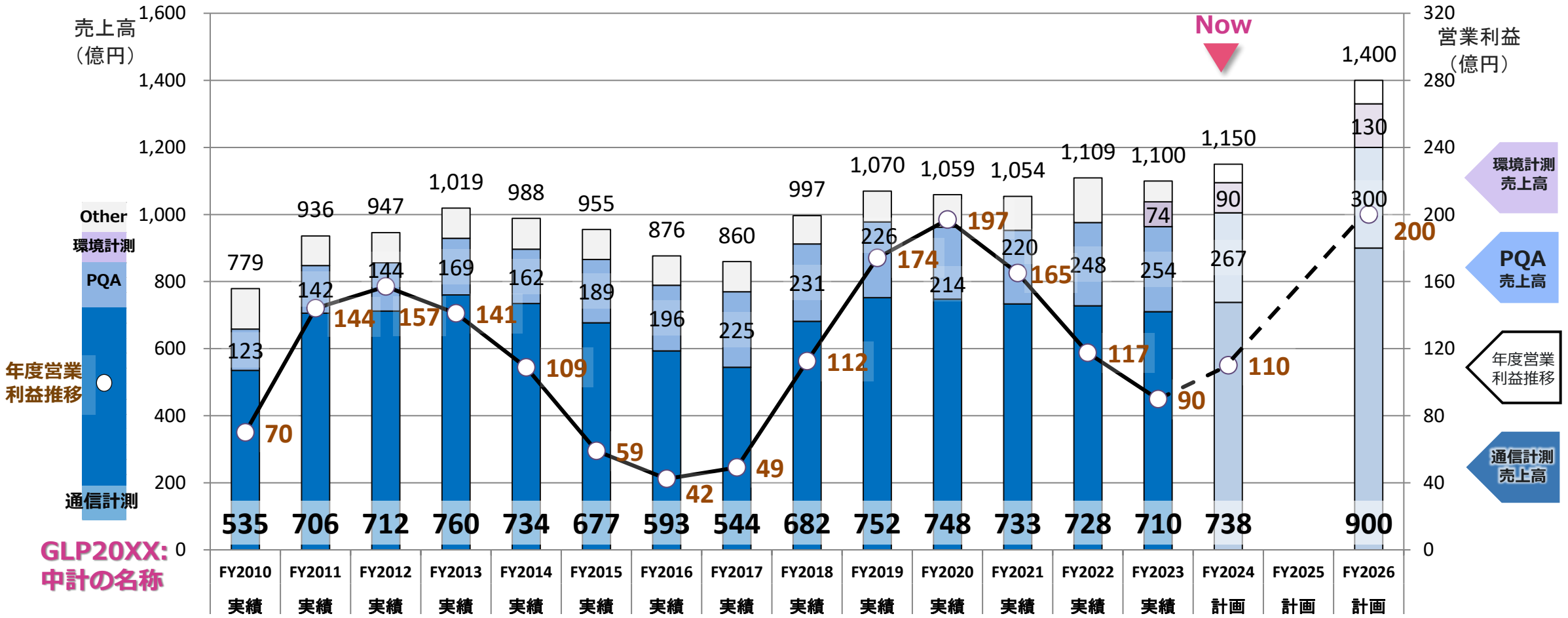
GLP2026

指標		FY2023	FY2024	FY2026
売上高		1,100 億円	1,150 億円	1,400 億円
営業利益		90 億円	110 億円	200 億円
営業利益率		8 %	10 %	14 %
当期利益		77 億円	83 億円	150 億円
ROE		6 %	7 %	12 %
通信計測事業	売上高	710 億円	738 億円	900 億円
	営業利益	75 億円	92 億円	150 億円
	営業利益率	11 %	12 %	17 %
PQA事業	売上高	254 億円	267 億円	300 億円
	営業利益	13 億円	19 億円	36 億円
	営業利益率	5 %	7 %	12 %
環境計測事業	売上高	74 億円	90 億円	130 億円
	営業利益	5 億円	7 億円	14 億円
	営業利益率	7 %	8 %	11 %

（参考）GLP2026想定為替レート： 1米ドル=145円、1ユーロ=155円

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-4-2. 売上高・営業利益計画（2/2）

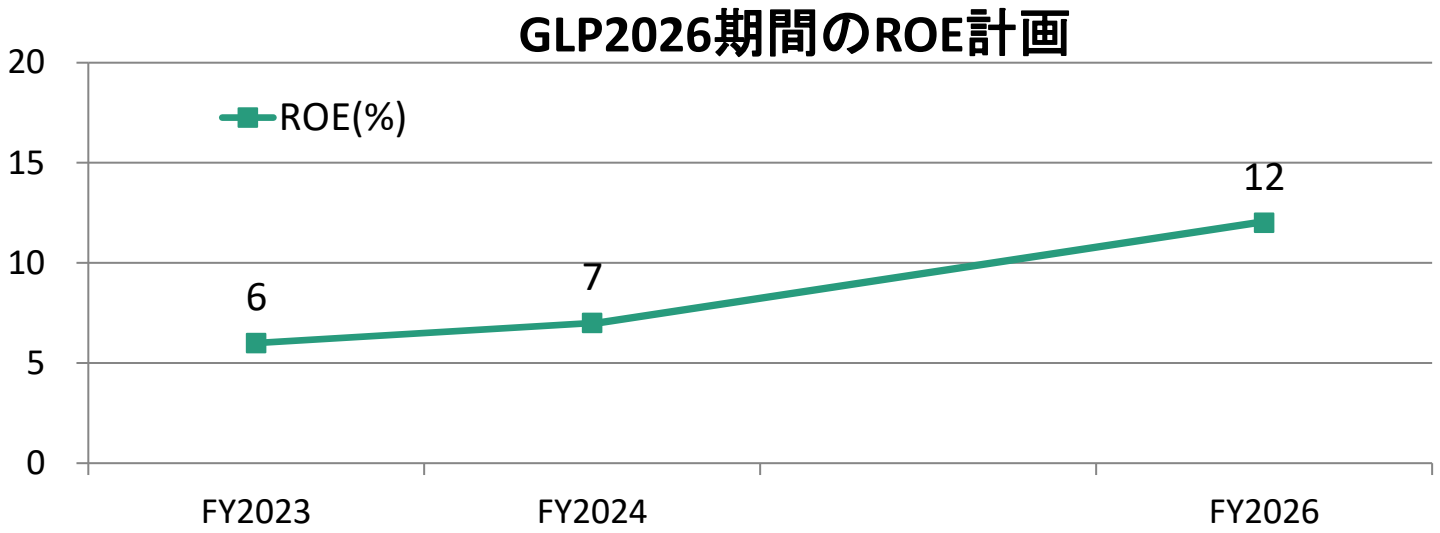


		FY2010 実績	FY2011 実績	FY2012 実績	FY2013 実績	FY2014 実績	FY2015 実績	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 実績	FY2020 実績	FY2021 実績	FY2022 実績	FY2023 実績	FY2024 計画	FY2025 計画	FY2026 計画
営業利益率	連結	9%	15%	17%	14%	11%	6%	5%	6%	11%	16%	19%	16%	11%	8%	10%		14%
	T&M	9%	20%	21%	17%	12%	7%	4%	4%	14%	20%	24%	21%	15%	11%	12%		17%
	PQA	5%	4%	6%	7%	5%	6%	7%	9%	7%	6%	6%	5%	5%	5%	7%		12%
GLP計画		GLP2012		GLP2014			GLP2017			GLP2020			GLP2023			GLP2026		

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-5-1. 財務戦略

1. 株主資本コスト（７%）を上回るROEの実現
   企業価値KPI ROE≧12%



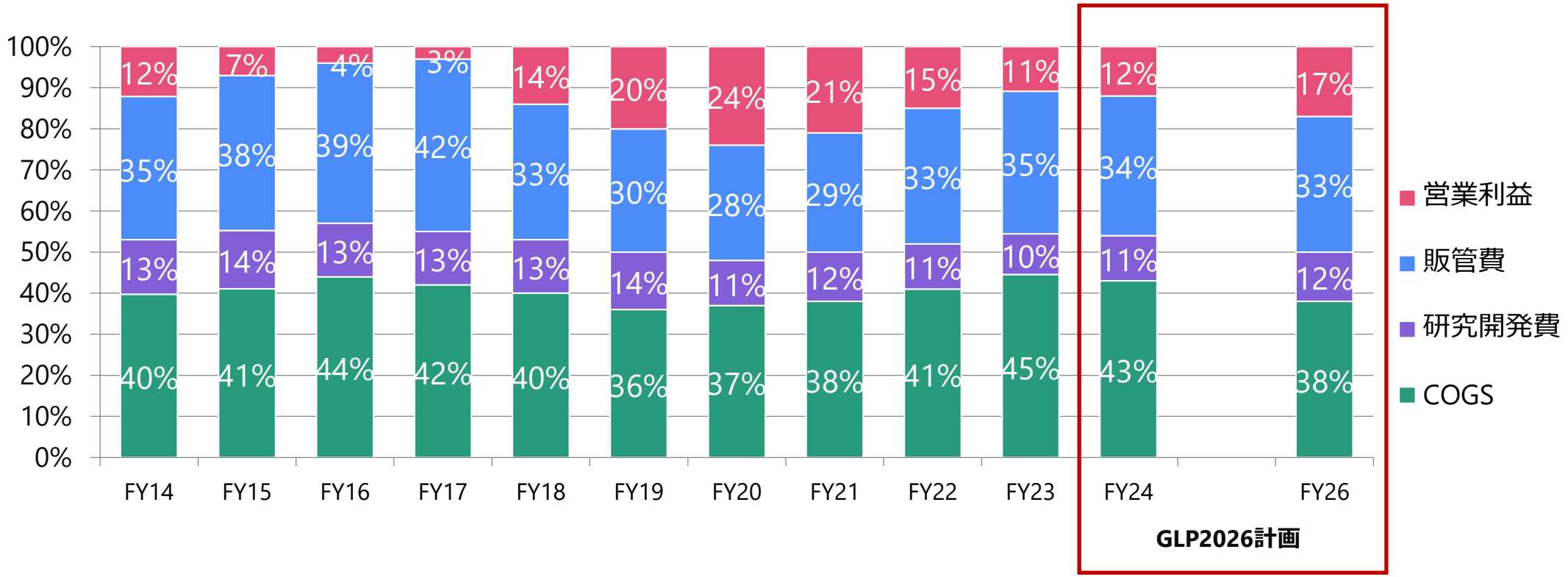
2. キャピタルアロケーションの最適化

500億円以上の営業CFに加えて、資産効率性の向上と強固な財務体質を活かした資金調達によりキャッシュを創出し、新領域のビジネスを推進するために400億円以上の成長投資を行います。株主還元については、配当は連結配当性向50%以上を目標とし、自己株式の取得は必要に応じて機動的に実施致します。

GLP2026期間の
キャピタルアロケーション

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-5-2. GLP2026：通信計測事業　収益構造モデル



コスト構造の改善に向けて

- 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウエア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 競争力の維持・向上：顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1　KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額）≧ 4.0

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-6-1. 人材戦略

経営ビジョン	「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。
経営戦略	既存事業の枠を超え、FY2030に売上高2,000億円、営業利益率20%を目指す 新領域ビジネスの開拓 / 強いものづくり / 働き方改革
人材ビジョン	「会社と多様な従業員がベクトルを合わせ、事業(社会)貢献意識を持ち、仕事と私生活のバランスを取りながら生き生きと働いている」
人材課題	• 経営戦略に連動した人材確保と配置 • 年齢別人員構成：FY2030に向けコア・中堅層の不足、シニア層の活用 • 経営戦略実現に向けた職場風土醸成：成長・挑戦/多様性受容/仕事と生活のバランス

■ Initiative

●成長事業・重点領域の人材確保と育成

✓経営戦略からトップダウンで人員計画を作成し、全体最適で戦略的な人員確保/配置/教育を行う
✓経営層、経営戦略部門、人事部門によるレビュー体制の確立（人財戦略レビュー）
✓A-SKILLsを立ち上げ、カンパニー横断での人材育成体制を構築

●若年/リーダー層の積極採用と育成、およびシニア層活用強化

✓新卒/キャリア問わず、若年層/コア人材の積極的な獲得を目指す
✓配置/職種転換の推進やリスキリング等の継続的な成長支援によるシニア層活用強化

●経営/人材ビジョン実現に向けた職場風土醸成

成長・挑戦
✓自らの壁を取り払い、新たな領域に好奇心を持って取り組む人材、ステークホルダーや他社と共に社会課題の解決を目指す人材を育成する

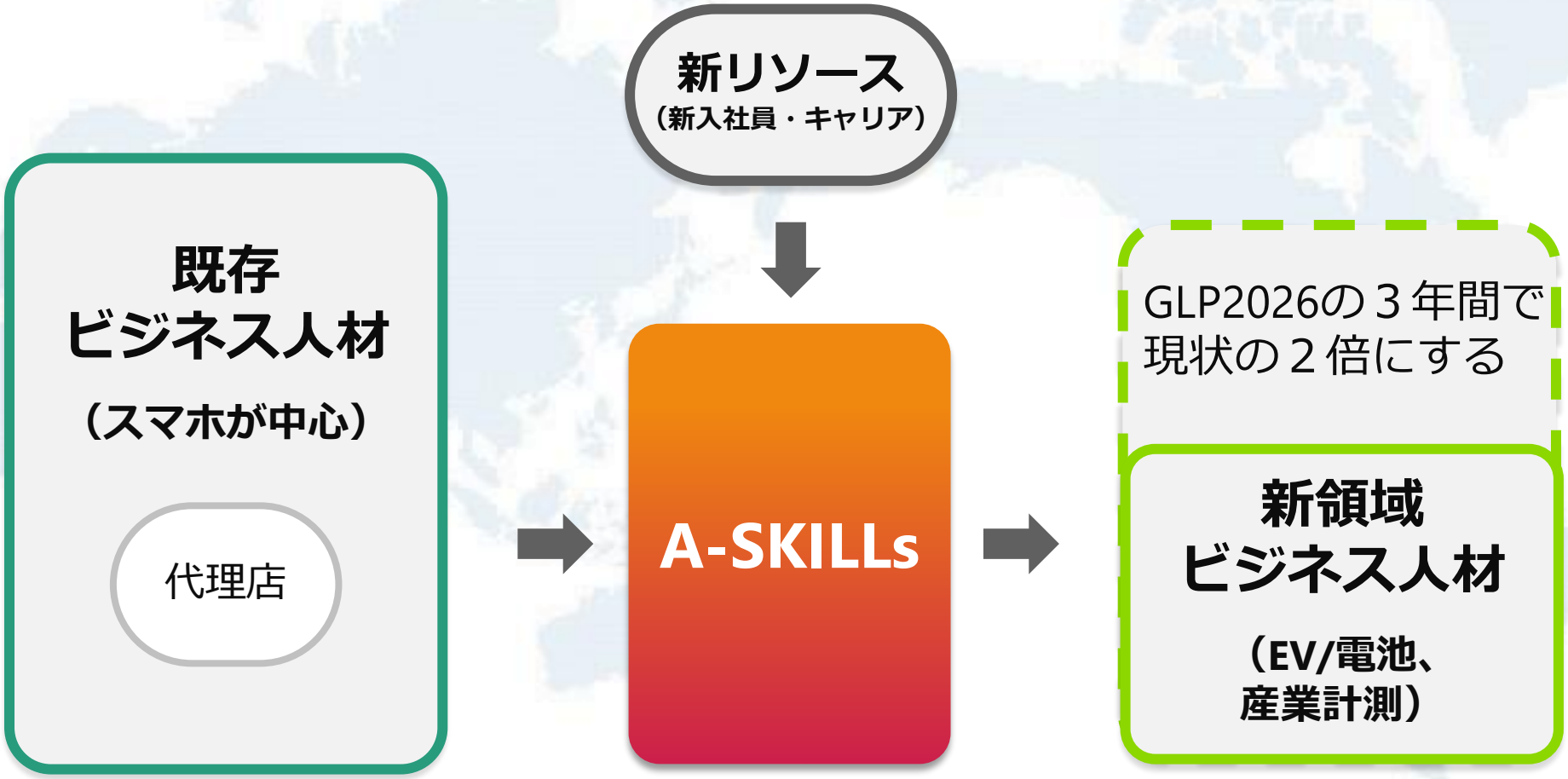
多様性の受容
✓価値観や考え方も含め多様性を持つバラエティに富んだ人材が混ざり合い、多様な視点と強みを活かし新たな価値を創造する

ライフワークバランス、就業環境整備
✓「生活と仕事のバランスを考えて、働きやすく人生を楽しめる会社」と「労働生産性が高く働きがいがある会社」の両立に向けた制度・環境を整備する

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Anritsu Skills Training Center (A-SKILLs)をスタート

- 新領域ビジネスの“技術”と“販売力”のスキルを身に着ける
- EV/電池計測、産業計測分野の人材をグローバルで増強



Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-7-1. 通信計測事業：GLP2026 概要

ビジョン

高品質で信頼性の高い通信テストソリューション、シミュレーションやサービスといった「はかるを超える」付加価値を提供し、DXの発展に貢献する。

通信の信頼性を上げることで社会の安全・安心を実現する。

計画達成に向けた方針

▶通信事業者、グローバルなデバイス･インフラベンダ、自動車関連ベンダに6G(サブテラヘルツ)、800GE/1.6TE、デジタルコヒーレント、テストとシミュレーションの高品質なソリューションを提供し、通信の安全・安心が担保できる社会基盤作りに貢献する

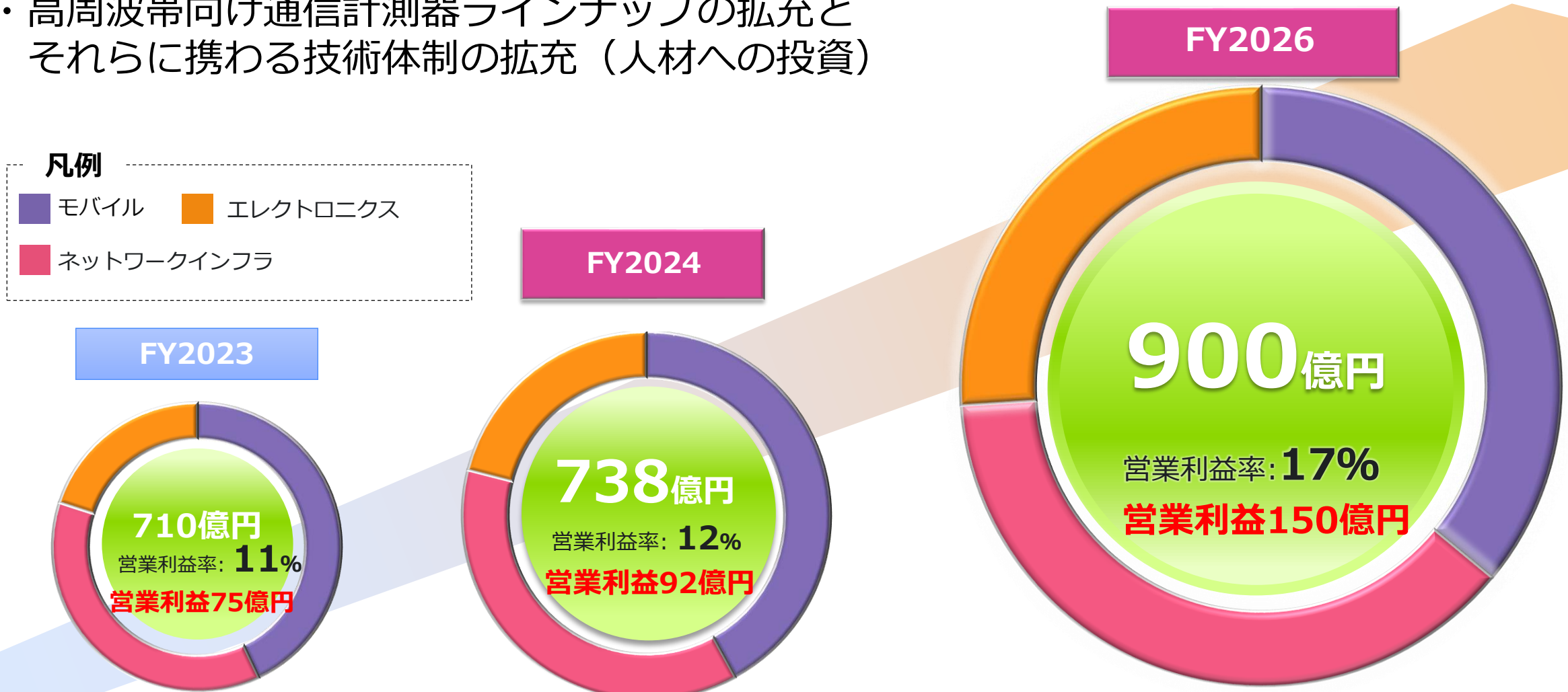
▶実環境での通信品質向上のための検証技術を世界に先駆けて確立する

▶6Gなどの次世代技術への投資を増大させる

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-7-2. 通信計測事業：GLP2026　売上高・営業利益計画

- 生成AIによるネットワーク高速化（800GE、1.6TE）需要を獲得
- ソフトウェアビジネスを拡大し営業利益率を改善
- 高周波帯向け通信計測器ラインナップの拡充と
  それらに携わる技術体制の拡充（人材への投資）



グラフはイメージ

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-7-3. PQA事業：GLP2026 概要

ビジョン

持続可能な未来に向けて、世界中のお客様から
最も信頼される品質保証の First to Call カンパニーになる

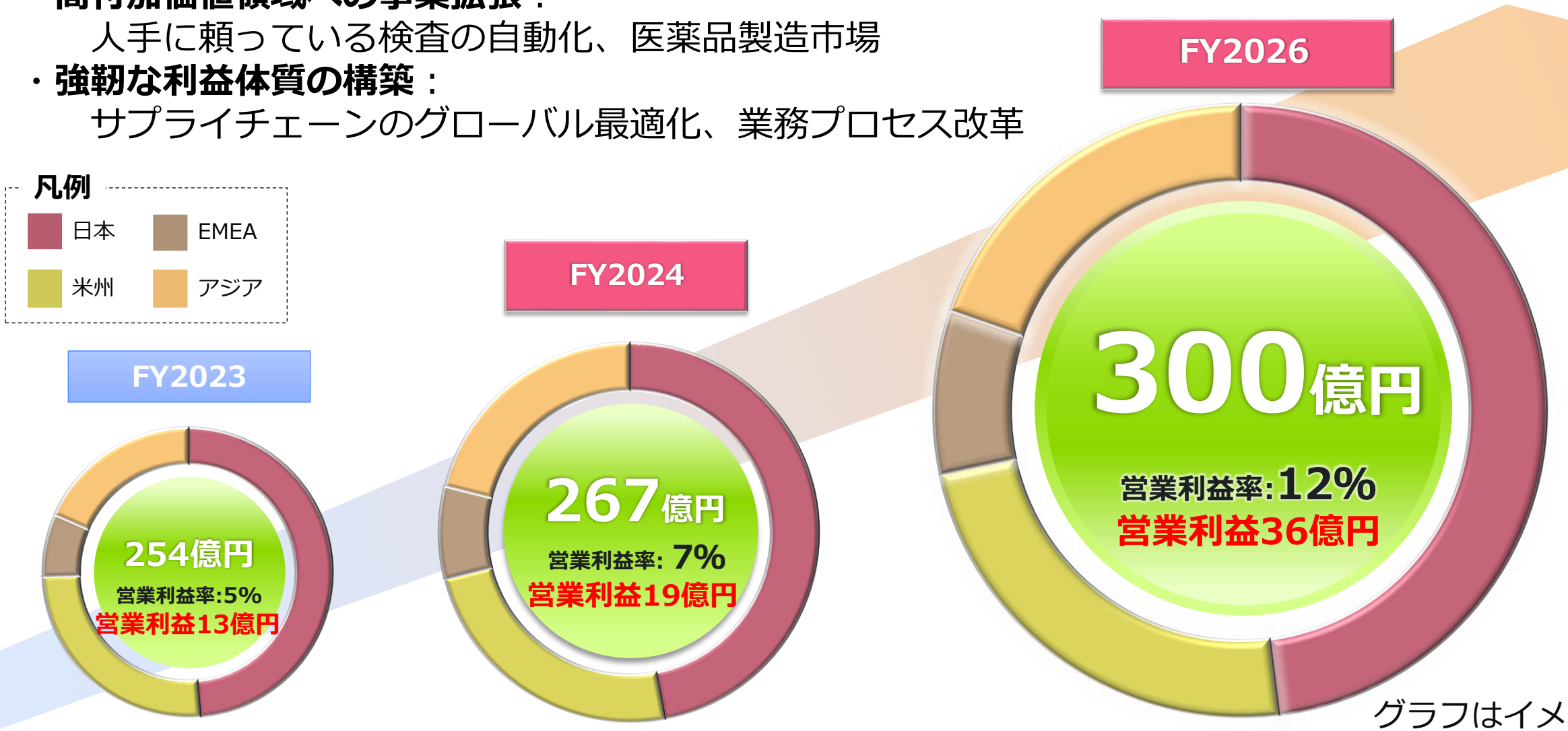
計画達成に向けた方針

▶グローバル市場への事業拡大
▶お客様の課題を解決する独創的な品質保証ソリューションの創造
▶医薬品/医療市場への事業拡大

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-7-4. PQA事業：GLP2026　売上高・営業利益計画

- **顧客価値の高いソリューションの創出**：
  AIなど先端技術の獲得、生産ラインの自動化・省人化
- **高付加価値領域への事業拡張**：
  人手に頼っている検査の自動化、医薬品製造市場
- **強靭な利益体質の構築**：
  サプライチェーンのグローバル最適化、業務プロセス改革



グラフはイメージ

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-7-5. 環境計測事業：GLP2026 概要

ビジョン

持続可能な社会の実現に貢献するソリューションを提供し、カーボンニュートラル、産業のデジタル変革、社会インフラのレジリエンスに向けた課題解決に不可欠な存在として認知され確固たる地位を確立する

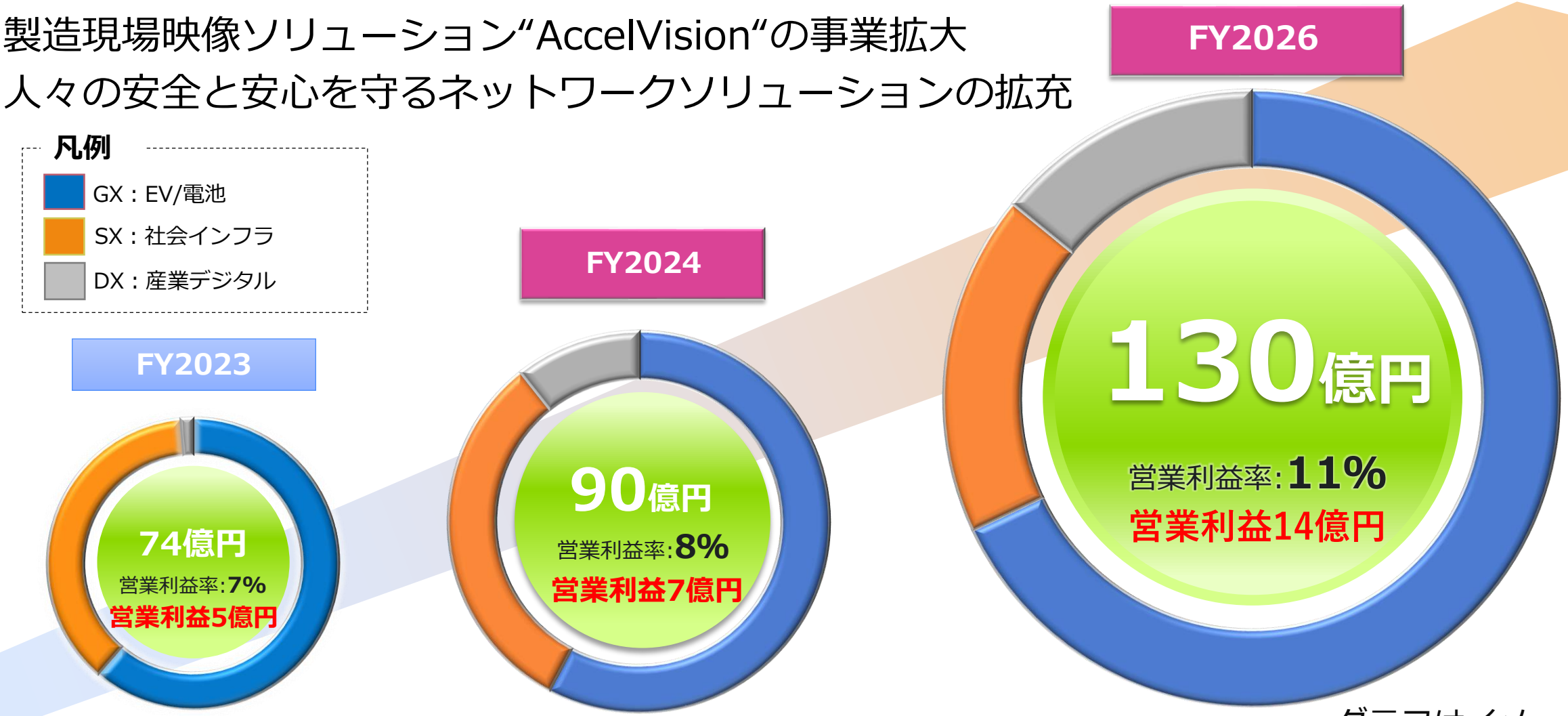
計画達成に向けた方針

▶EV/電池試験ソリューションの継続強化により市場成長以上の事業成長を実現する
▶EV/電池試験ソリューションのグローバル(北米市場)展開をGLP2026で軌道に乗せる
▶「つなぐ技術」で製造現場の効率化/省人化を実現する
▶社会の安全･安心を守る通信インフラの次世代化に貢献する

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-7-6. 環境計測事業：GLP2026　売上高・営業利益計画

- 国内EVパワートレイン試験、およびEV関連の裾野市場で優位なポジションを維持
- EV/電池試験や電源ビジネスのグローバル展開に向けた取組みの加速
- 製造現場映像ソリューション“AccelVision“の事業拡大
- 人々の安全と安心を守るネットワークソリューションの拡充



グラフはイメージ

Copyright© ANRITSU CORPORATION

1-8. サステナビリティ目標

	目標・取組	GLP2026:KPI
E 環境	温室効果ガスの削減	● 温室効果ガス（Scope1+2）(※)：2021年度比 23%以上削減 ● 温室効果ガス（Scope3）(※) ：2019年度比 17.5%以上削減 …2030年度で、Scope1+2は42%以上、Scope3は27.5%以上削減
	自家発電比率の向上(PGRE 30)	● 自家発電比率：14%以上　… 2030年ごろまでに30%程度まで高める
	資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現	● 資源循環に対応した製品をリリースする ● プラスチックごみを100%マテリアルリサイクル
S 社会	ダイバーシティ経営の推進	● 女性の活躍推進　：女性管理職比率 15%以上 ● 障がい者雇用促進　：職域開発による法定雇用率 2.7%達成
	働きがいのある労働環境の実現	● 社員満足度調査の働きがいポジティブ回答率：80%以上
	グローバルなCSR調達の推進(環境、労働環境、人権などにおける社会的責任)	● サプライチェーン・デューデリジェンスの強化：10社/年以上 ● CSR調達に係るサプライヤへの情報発信：3回/年、教育2回/年以上
G ガバナンス	グローバルなガバナンス向上	● 取締役の多様性の推進：女性取締役比率 20%以上 ● 取締役会における重要経営課題の集中討議　6回/年

(※) Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、Scope3：カテゴリ1(購入した製品・サービス)+カテゴリ11(販売した製品の使用)における間接排出

Copyright© ANRITSU CORPORATION

2. 事業概要

Copyright© ANRITSU CORPORATION

2-1. 事業概要

通信計測事業
ネットワーク社会の進化・発展

- **モバイル市場 ：** 5G、5G利活用
- **ネットワーク・インフラ市場 ：** データセンター、光NW、無線NW
- **エレクトロニクス市場 ：** 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業
食と医薬品の安全・安心

- 食品検査市場
- 医薬品検査市場

環境計測事業
脱炭素社会を目指して

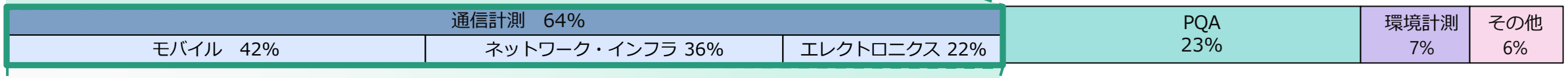
- EV/電池試験市場
- ローカル5G導入支援

その他

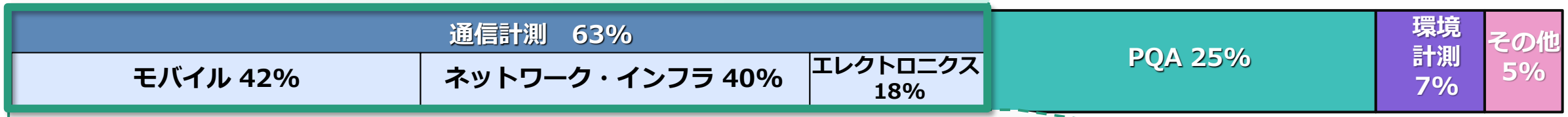
- センシング&デバイス
- その他

（セグメント別売上比率）

2024年3月期 実績（連結）： 1,100億円

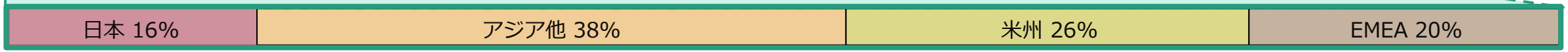


2025年3月期 （4-12月）実績（連結）： 808億円



（通信計測事業 地域別売上比率）

2024年3月期 実績

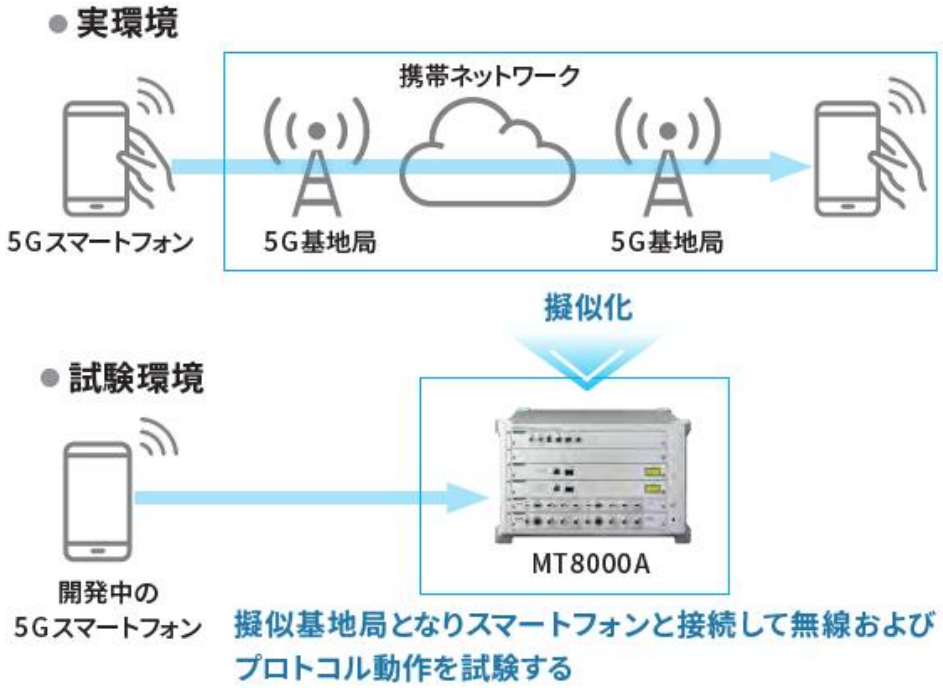


2025年3月期 （4-12月）実績

Copyright© ANRITSU CORPORATION

2-2. 通信計測事業

提供するソリューション：スマートフォン開発
スマートフォンの開発において、最新の3GPP規格に適合させるために、アンリツの測定器が擬似的な基地局となり、「無線」および「通信プロトコル」動作のデバッグを実施する環境を提供。
スマートフォン開発エンジニアは、自身の設計の動作検証が可能。



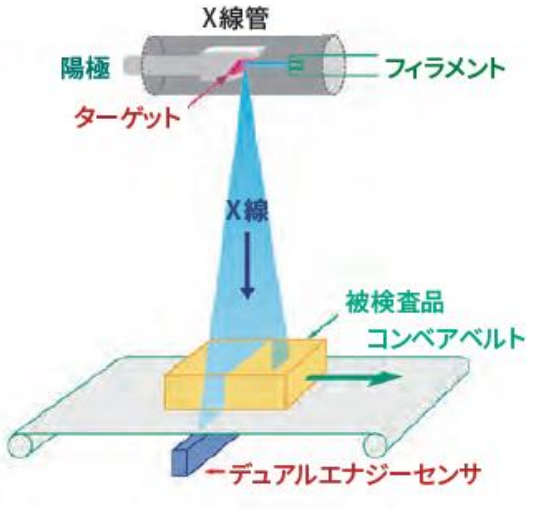
開発中のスマートフォンは、実環境の基地局に接続することはできません。アンリツのMT8000Aは、擬似的に基地局とネットワークをエミュレートすることで、開発中のスマートフォンとつながり、エンジニアのデバッグをサポートします。

Copyright© ANRITSU CORPORATION

2-3. PQA 事業

提供するソリューション：食の安全・安心

検査品の内部を透視するX線検査で、さまざまな食品の生産ラインにおいて、異物だけでなく、検査品の形状不良や数量不足の検査が可能。
より確実で高度な品質管理に向けて、独自のソリューションを提供。



鶏肉の残骨検査

異物検査
食品などに含まれる石やプラスチック、残骨などを検出します。

欠品検査
お弁当のおかずに欠品がないか検査します。

ポテトサラダパウチ包装での検査。
かみこんだ食品はX線をシール部より多く吸収。

かみこみ検査
食品のパッケージのシール部分に、内容物がかみこんでいないかを検査します。

■ 先端技術を導入することで高感度検出を実現

フィルタリング技術
透過画像に施す信号処理（フィルタリング）を組み合わせで実施することで異物信号の抽出能力を向上

画像処理技術
信号処理と画像解析アルゴリズムの高度化により、不適切部分を正確に指示

Copyright© ANRITSU CORPORATION

2-4. 環境計測事業

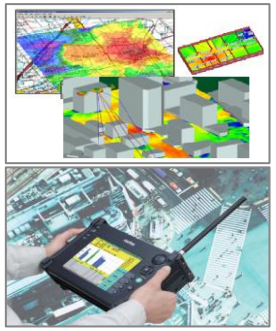
EV/バッテリ開発

EVパワートレイン
エミュレーション

バッテリ充放電
試験システム

EVの主要部品であるバッテリ、インバータ、モーターの性能や信頼性評価に用いられる各種試験装置を提供

スマートファクトリー



ローカル5G
導入･運用･ 活用
支援サービス

製造DX支援システム

工場の省人化や生産性向上に向けて
ローカル5Gやデジタル技術の導入と活用を支援

Copyright© ANRITSU CORPORATION

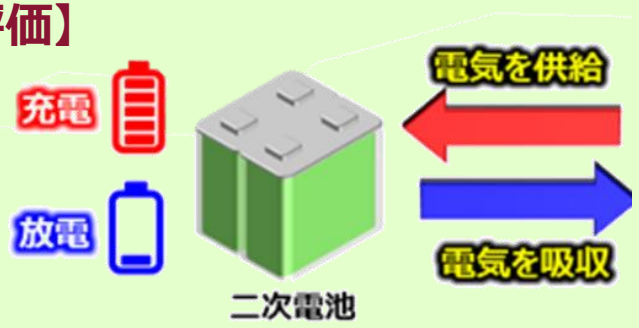
2-5. 環境計測の高性能電源ソリューション

EVの駆動系やバッテリの試験に使われる**試験用高電圧電源**

アプリケーションで目的に合わせた用途変更

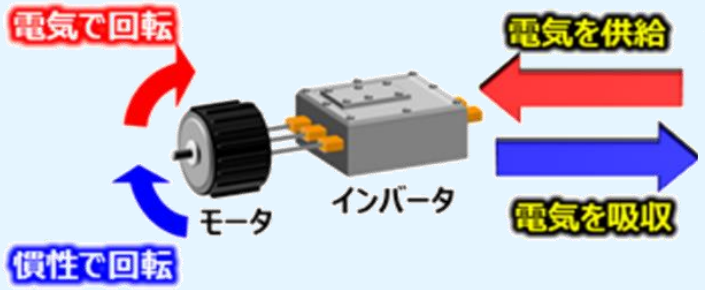
電池充放電試験

【電池評価】

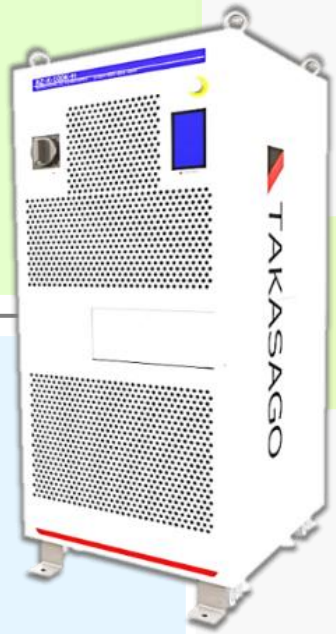


駆動系試験

【インバータ・モータ評価】



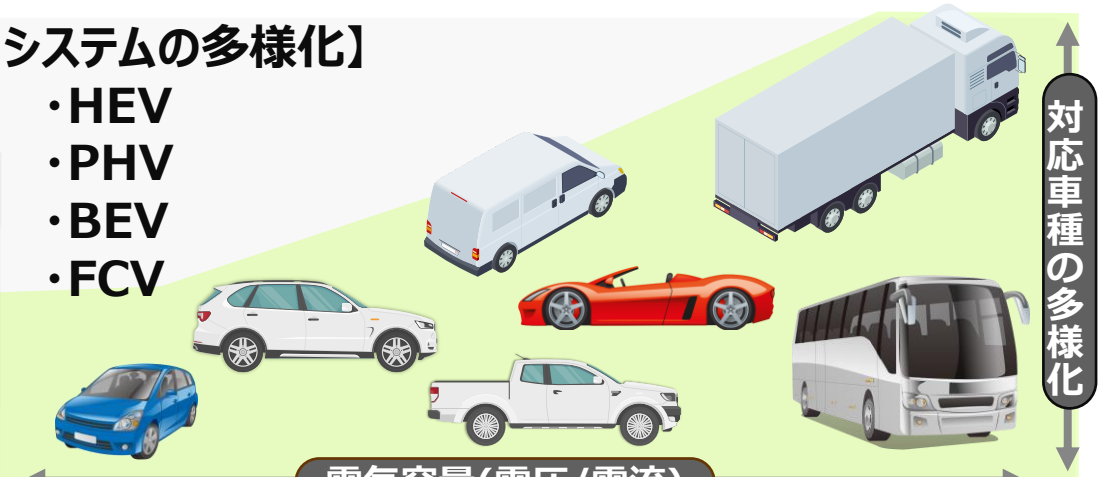
電圧/電流の容量変化に応じた直列/並列構成

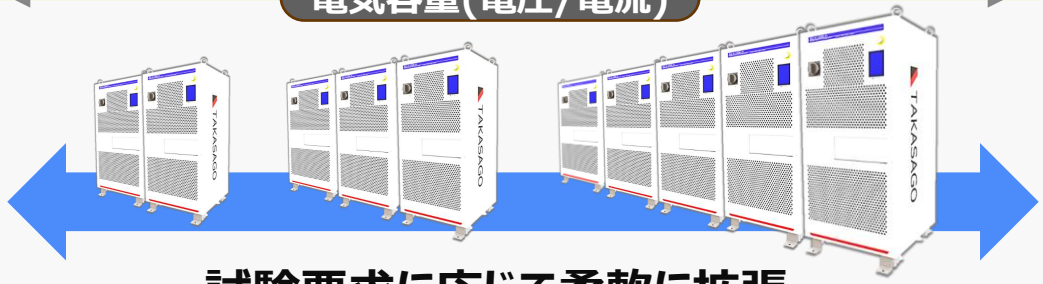


RZ-X2-100K

【システムの多様化】

- HEV
- PHV
- BEV
- FCV





試験要求に応じて柔軟に拡張

Copyright© ANRITSU CORPORATION

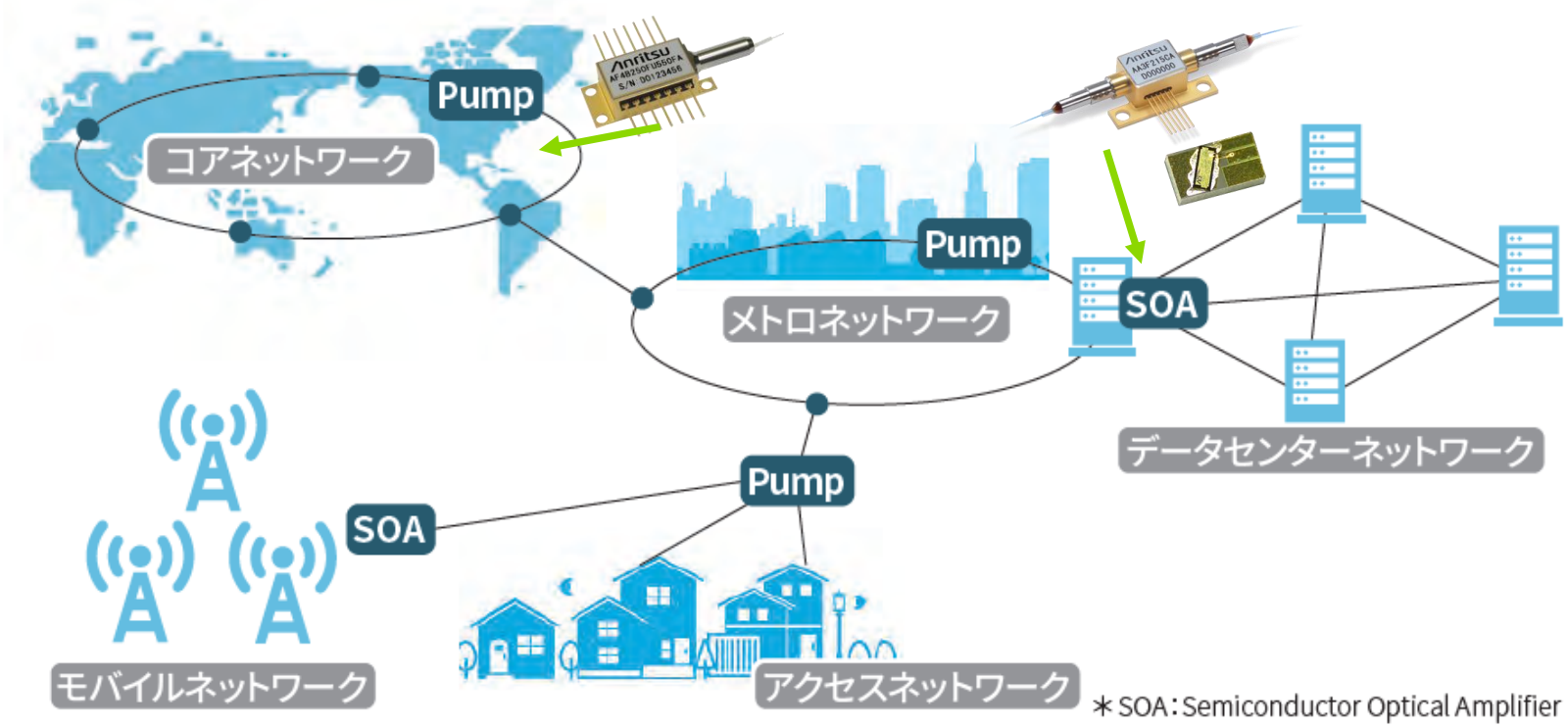
2-6. センシング&デバイス事業

提供するソリューション

①光通信市場：光信号をそのまま増幅する光ファイバーアンプに用いられる励起用の半導体レーザー、光信号の劣化を防ぐ目的で光トランシーバーに搭載される半導体光増幅デバイス
②センシング市場：眼科医用機器光源、ガス漏洩検知用機器の光源

通信

光ファイバーアンプ、光トランシーバーなどに用いられる励起用半導体レーザー（Pumpレーザー）や半導体光増幅デバイス（SOA）などの製品が通信ネットワークを支えています

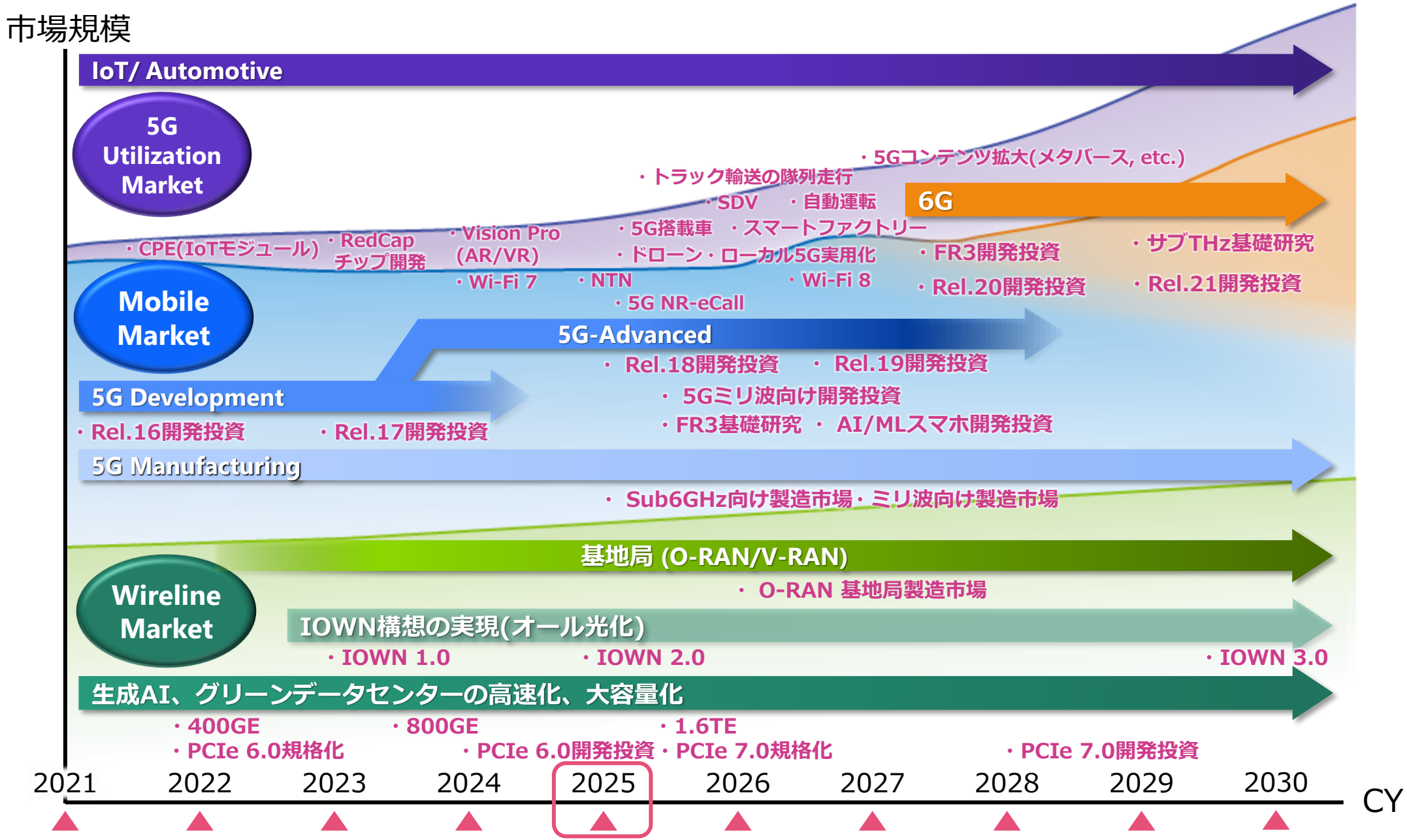


Copyright© ANRITSU CORPORATION

3. 通信計測事業

Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-1. 通信計測市場トレンドと事業機会



Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-2. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション

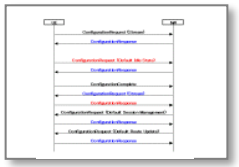
Anritsu
Advancing beyond

Sub6 / ミリ波
チップ開発・商用化端末開発

Sub6 / ミリ波
商用化端末開発

Sub6 ミリ波
量産化

チップセットメーカの技術検証



プロトコル

ベースバンドチップセット / RF回路

端末メーカの結合・性能評価

機能・性能評価

端末メーカ/テストハウス規格適合性試験

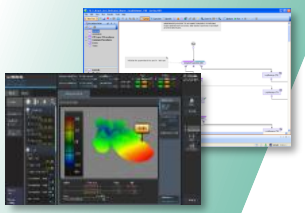
Conformance Test (CT)

事業者受入試験

Carrier Acceptance Test (CAT)

量産試験

RF校正・検査



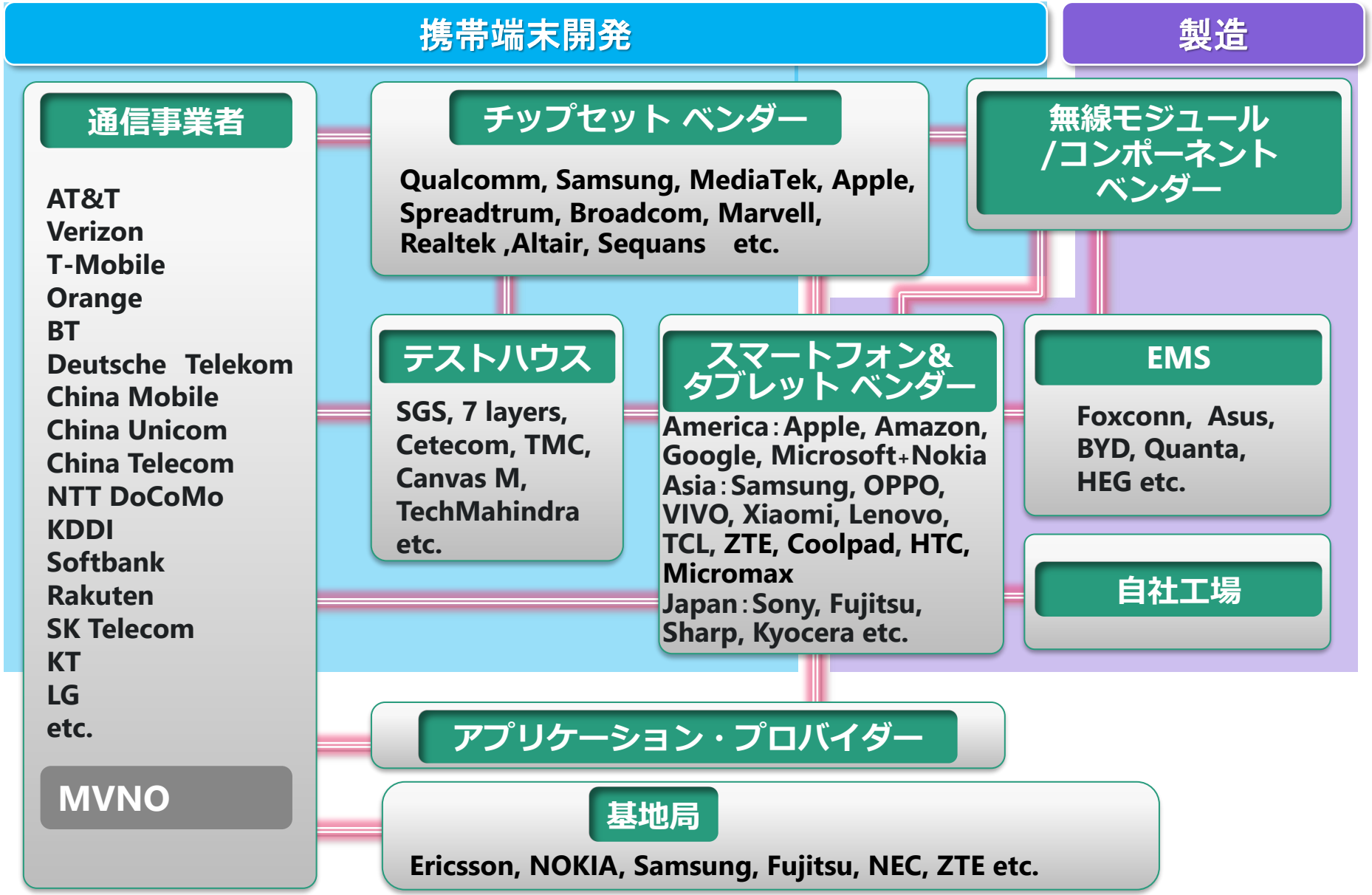
MT8000A
ラジオコミュニケーション
テストステーション

ME7873NR／ME7834NR
5G NRコンフォーマンス・事業者受入試験テストシステム

MT8870A
ユニバーサルワイヤレス
テストセット

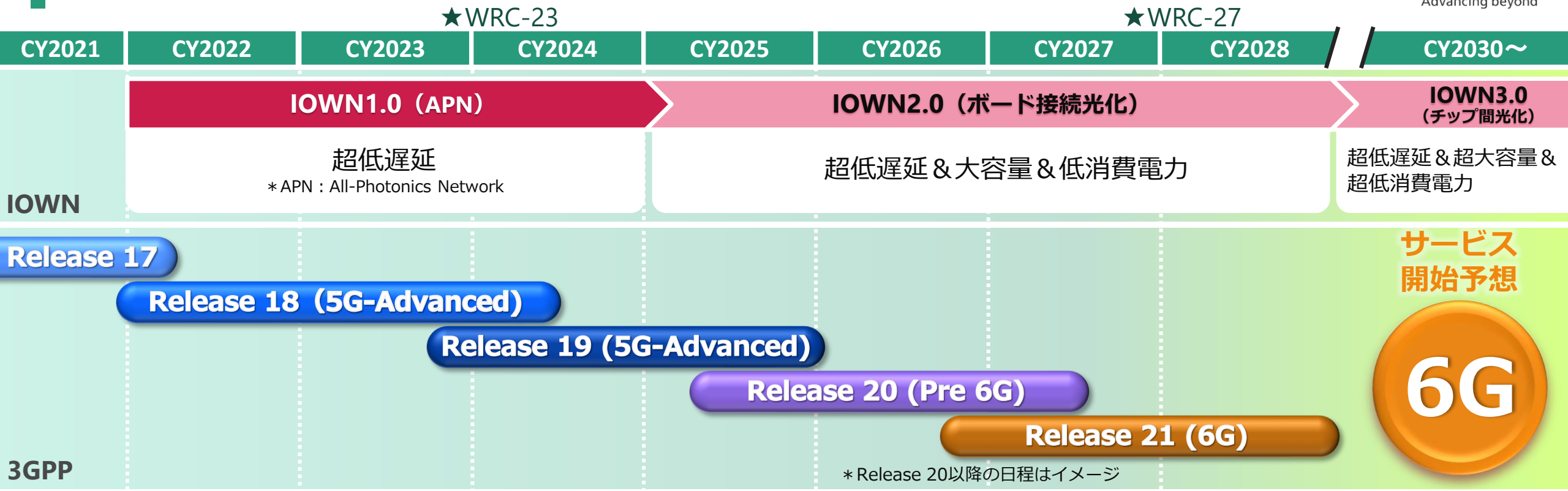
Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-3. モバイル通信市場の業界構造



Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-4. 標準化動向



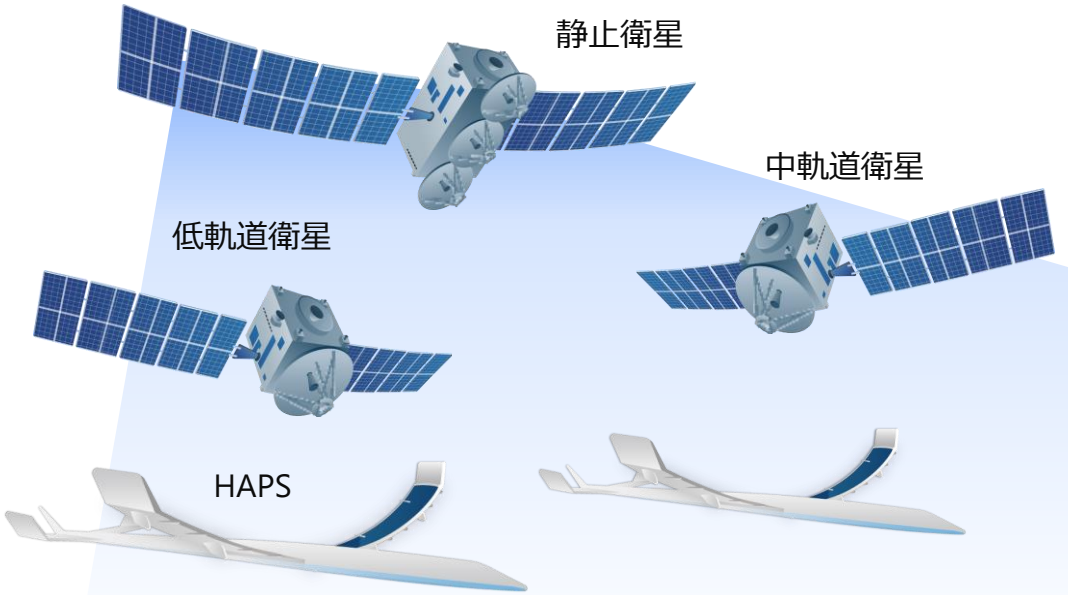
3GPP Releaseの主な追加仕様	Release17	Release18	Release19
Network強化	NTN(非地上ネットワーク)(NB-IoT)	NTN機能拡張(5G NR) AI/MLモデルの配信/転送	FR3(7~15GHz)対応 AI/MLエアーインターフェイス
端末機能強化	電力消費量低減	ミッションクリティカル通信	XR機能強化
産業用IoT	産業用IoT “RedCap”の導入	eRedCapの策定	UAV/UAM（ドローン/空飛ぶ車）
Automotive	V2X	サイドリンクCA	FR2サイドリンク

＊出所：一般公開情報を参考に当社作成

Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-5. 衛星やHAPSを用いたモバイル通信のための開発向けソリューション

衛星やHAPSを用いたモバイル通信サービス実現に向けNTN規格に対応



2025年

4Gシステムを用いる
NB-IoT対応

建設機械、IoTが中心

MT8821C/MD8430A
にて対応済み

2026年

3GPPリリース18にて、
5G NRを用いるNTN仕様
が制定

5Gスマホに搭載

今後対応予定

エリアの拡大

山岳地域における
コネクティビティの拡大

海上エリアにおける
コネクティビティの拡大

既存インフラの代替

モバイル基地局・固定
電話・自営無線の代替

IoTサービス

各種IoT機器との
コネクティビティ

災害対策の拡充

災害時の情報収集
緊急連絡

バックホール回線

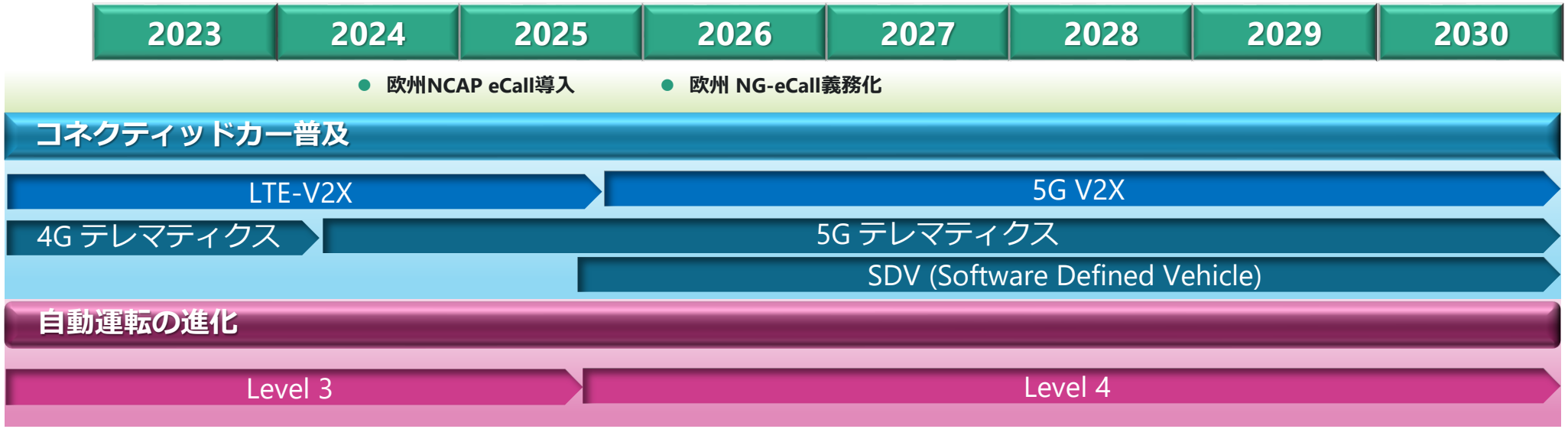
インフラ拡充整備
移動体向けWiFi

NTN利用時のユースケース

Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-6. 自動車市場における新技術の導入とアンリツの取り組み

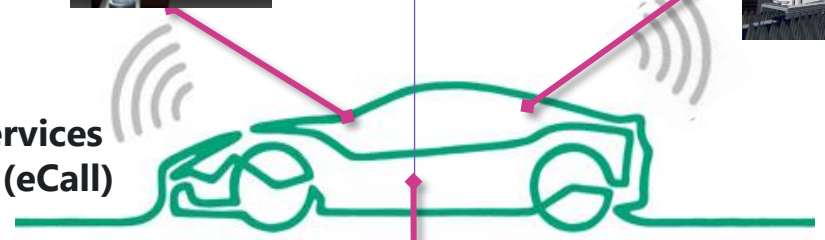
Anritsu
Advancing beyond



コネクティッドカー/ V2X

モバイルネットワーク
シミュレータ

- **Infotainment/ Connected Services**
- **NG-eCall (4G/5G), UN-R144 (eCall)**
- **Cyber Security**
- **V2X (802.11p, C-V2X)**



フィールドモニタリング

HILと連携した通信協調型サービス

- **SmartViser社協業**

※V2X: Vehicle to X（車車間・路車間通信）

Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-7. NG-eCall(車両緊急通報システム）向けソリューション

欧州で義務化されるNG-eCallの機能試験に対応

・欧州市場にて2026年1月1日から義務化されるNG-eCall*1の試験をサポート
・MT8000A/MD8475BとeCallテスタを組み合わせて擬似的なネットワークを構築

MT8000A ラジオコミュニケーション
テストステーション

MD8475B シグナリングテスタ

MX703330E eCallテスタ

*1: Next Generation Emergency Call

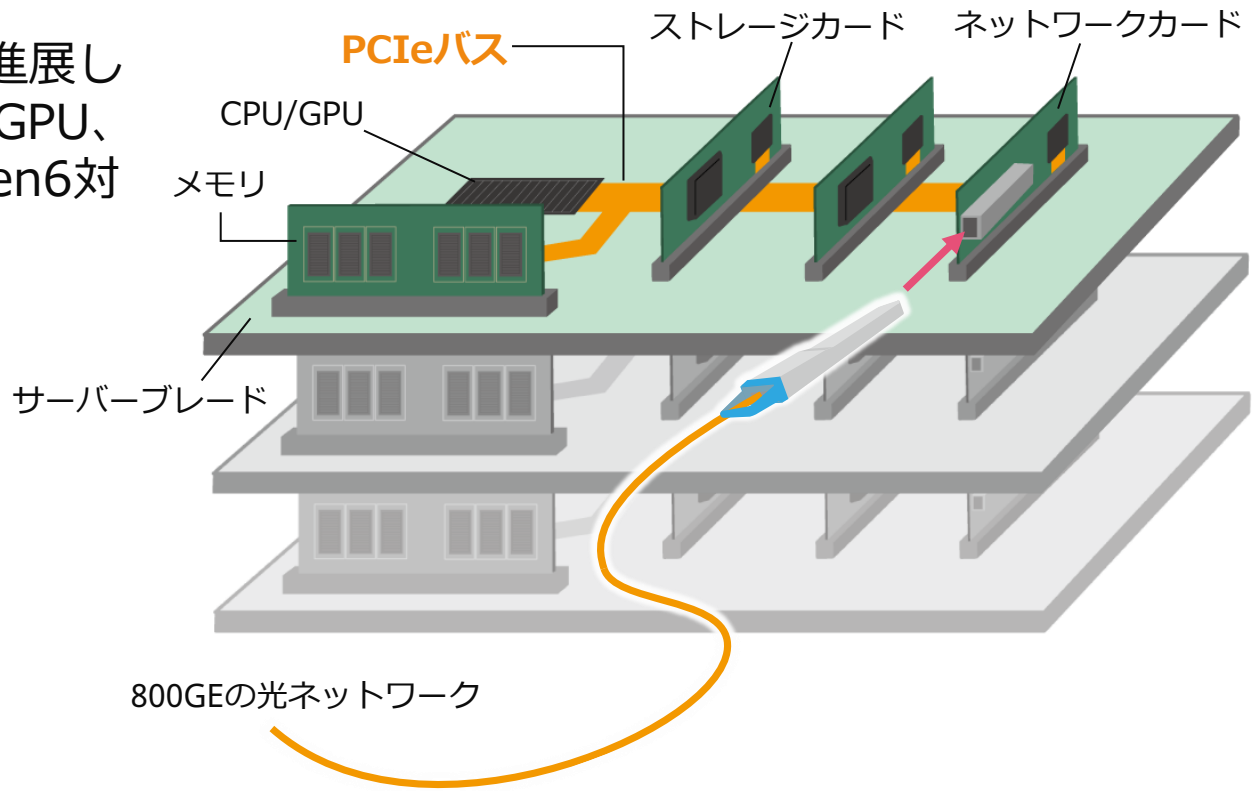
Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-8. サーバー内高速化のための開発向けソリューション

サーバー内通信の高速化に向けて、PCIe Gen6に対応

サーバー間の光ネットワークとして、800GE化が進展している。これに伴い、サーバーブレード上のCPU/GPU、メモリ、各種モジュール間の高速通信用にPCIe Gen6対応が進められている。

MP1900Aの強み：
- 自社内製デバイスを使用することで高い波形品質の出力信号を実現
- Gen6が要求するLink Training（ループバック試験）プロトコルに対応（業界初*）　*:アンリツ調査による



データ誤り率と波形品質の評価に使用

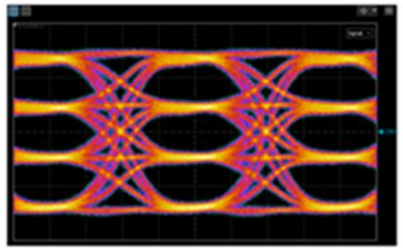
シグナル・クオリティ・アナライザ MP1900A

受信性能試験としてひずみを加えたPCIe信号入力

出力信号の誤り率を測定

DUT

出力信号の波形測定



オシロスコープによる観測波形

Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-9. ネットワークの高速化に向けたモジュール製造向けソリューション

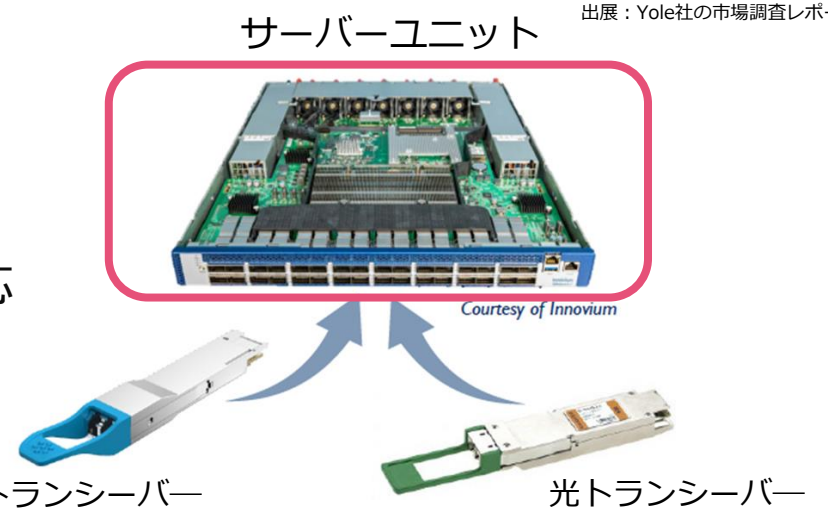
生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴う光トランシーバー評価に対応

BERTWave　MP2110A

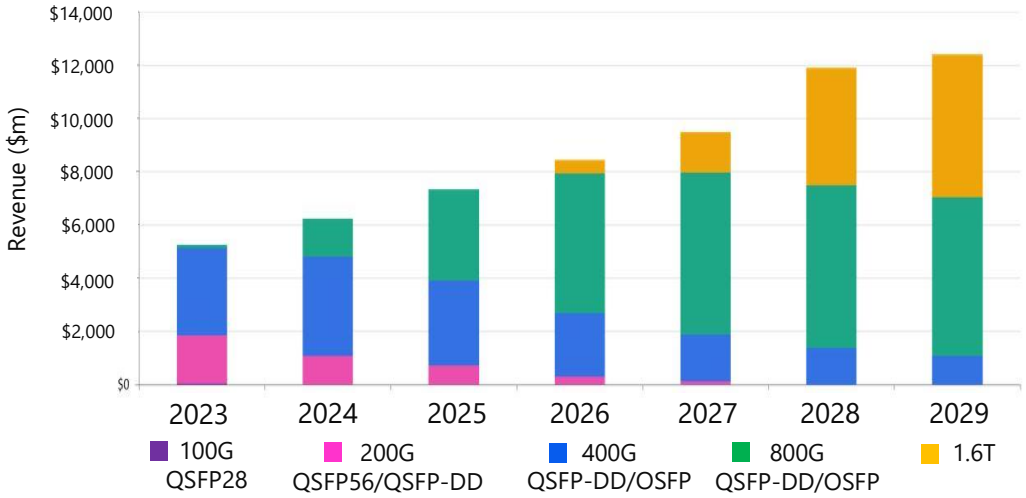
MP2110Aの強み：
製造検査に最適な構成
- 4チャネルの同時測定が可能
- 誤り率測定と波形品質測定を1台で対応

100GE/400GE/800GE信号

出展：Yole社の市場調査レポートより

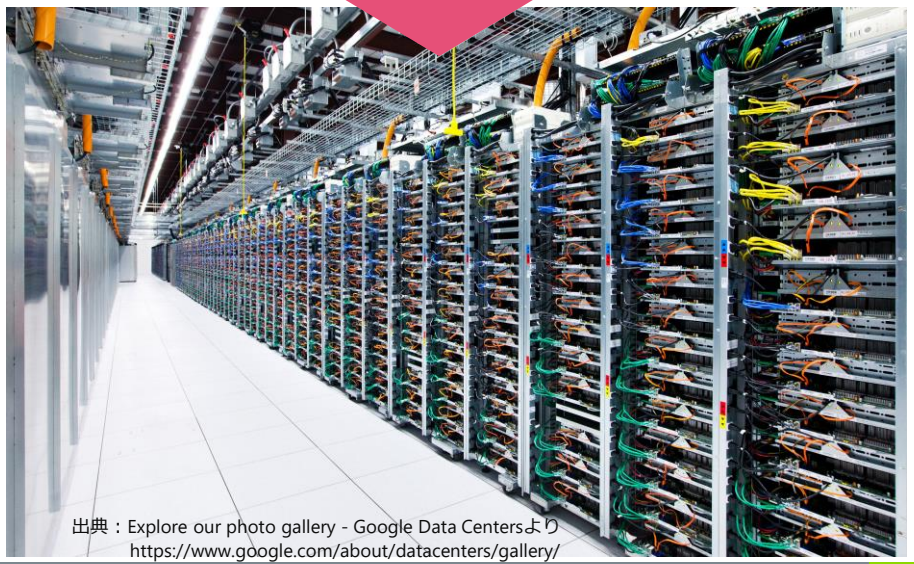


Optical modules by data rate



出典：Omdia; 2025 Trends to Watch: Datacom Optical Components

サーバーラックの裏側
サーバーユニットに挿入される
大量の光トランシーバー



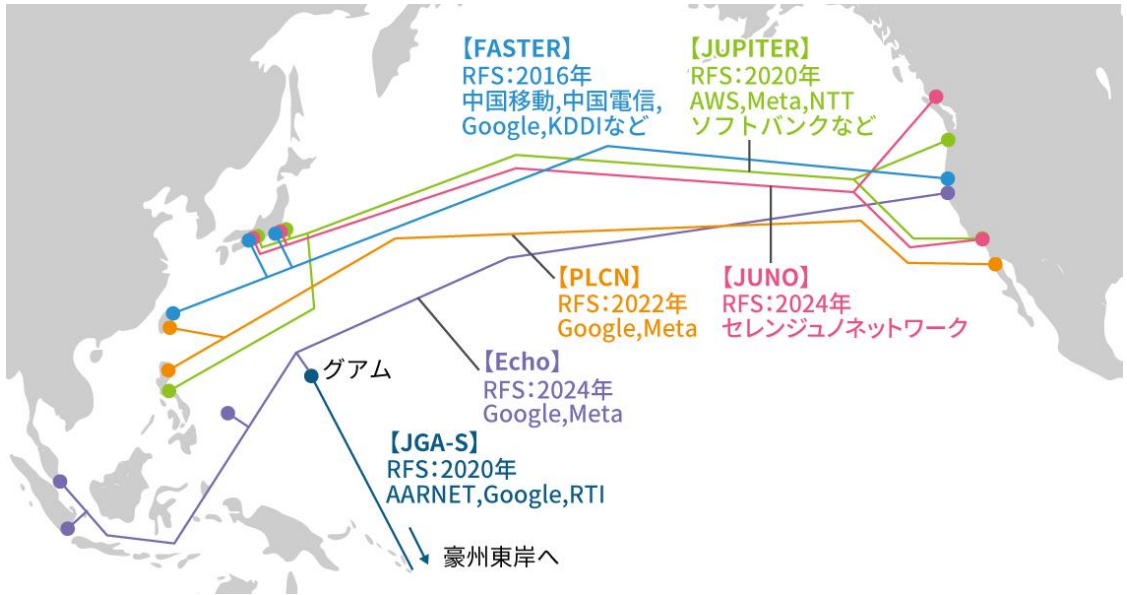
出典：Explore our photo gallery - Google Data Centersより
https://www.google.com/about/datacenters/gallery/

Copyright© ANRITSU CORPORATION

3-10. 光海底ケーブルの敷設・保守用ソリューション

光海底ケーブルの敷設時と保守時の障害検知に対応

データセンター増設のために新たな経路での光海底ケーブルの敷設が、ハイパースケーラーによって推進

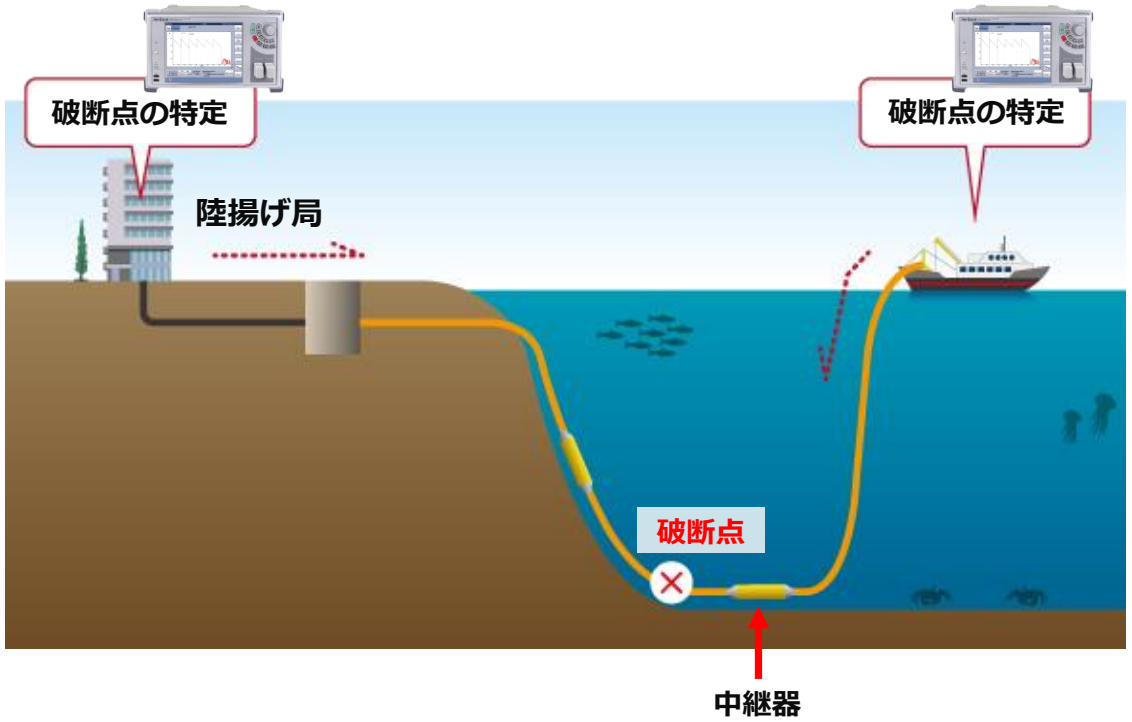


出典：TeleGeoGraphy「Submarine Cable Map」を基に作成

MW90010B
コヒーレントOTDR

最大**20,000km**までの光ケーブルの障害を10mの分解能で検知
(日米間の太平洋海底ケーブルは10,000～12,000km)

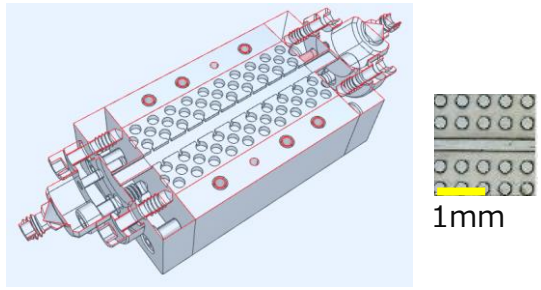
ケーブルの敷設時は、陸揚げ局と敷設船の双方からケーブルの伝送損失や中継器の動作をモニタ、保守時は陸揚げ局側から障害箇所を特定



Copyright© ANRITSU CORPORATION

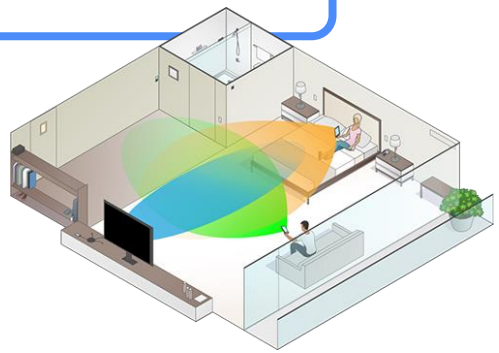
3-11. 6Gに向けてのアンリツの取組み

- 100GHz超の
  ミリ波設計技術
- ～300GHz帯の
  受動素子の研究



ギャップ導波路

Full Duplex通信時の
電波干渉の測定技術



IOWN GLOBAL FORUM

5Gの10倍の
通信速度

5Gの1/10の
低遅延

6G
アンリツ
の取組み

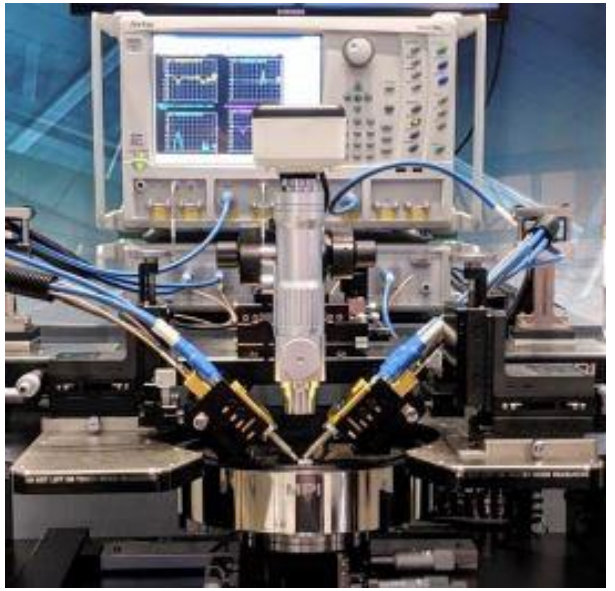
拡張性

消費電力を
現在の1/100

自律性

O-RAN ALLIANCE

Beyond 5G/6G
材料、基板、デバイス、アンテナの性能評価
ME7838シリーズ
ベクトルネットワークアナライザ



■ 特 徴

ミリ波拡張モジュール追加により、
6Gに求められる330GHz帯の
高周波試験に対応

■ 対象顧客

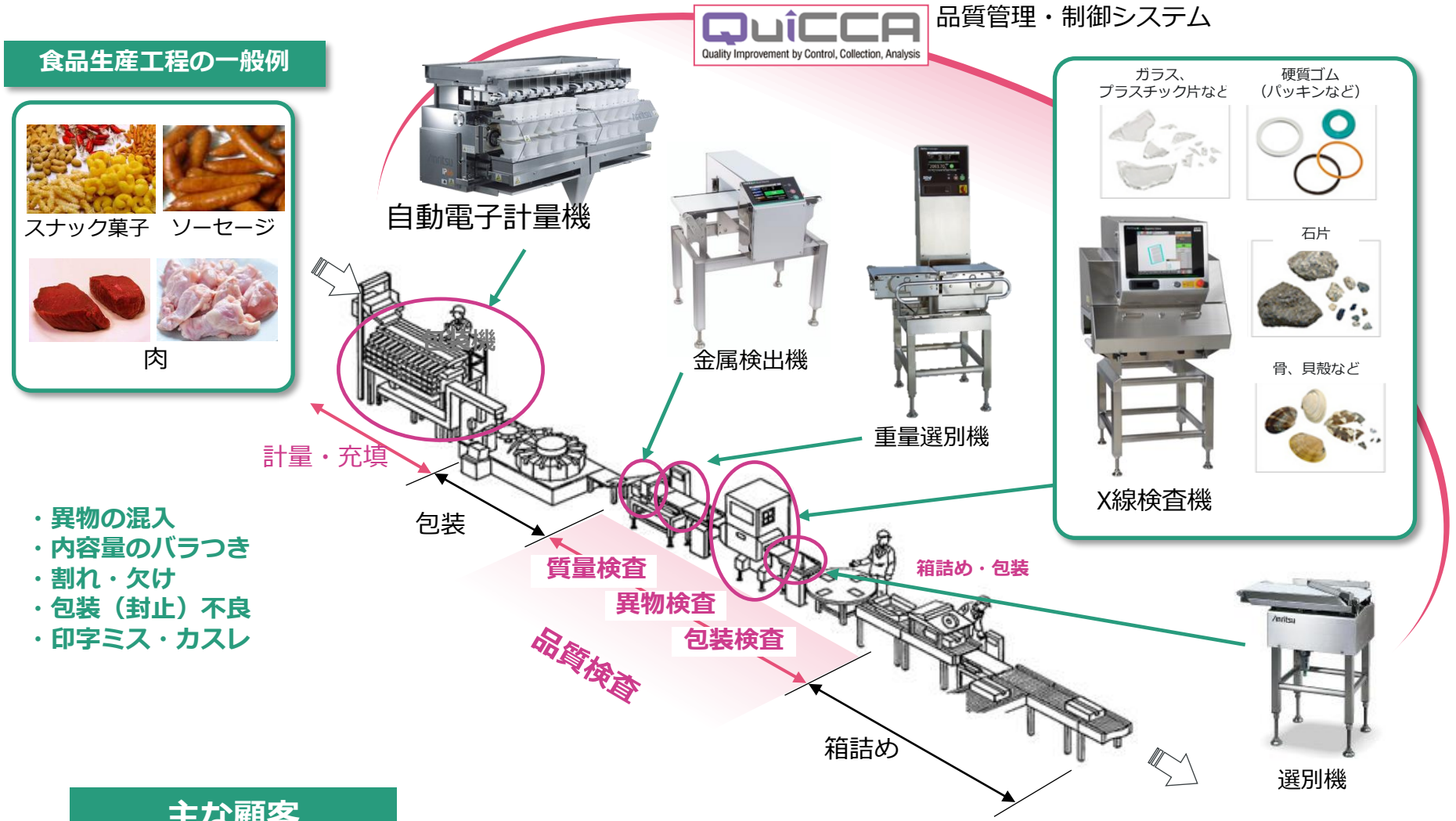
高周波デバイスの研究機関および
大学、デバイスメーカー、素材メーカー、
通信機器メーカー

Copyright© ANRITSU CORPORATION

4. PQA事業

Copyright© ANRITSU CORPORATION

4-1. PQA事業 (Products Quality Assurance)



主な顧客

モンデリーズ、ネスレ、クラフトハインツ、日本ハムグループ、グリコグループ、ニッスイグループなど

Copyright© ANRITSU CORPORATION

4-2. PQA事業：市場の成長機会

医薬品市場
日本・北米・中国
インド

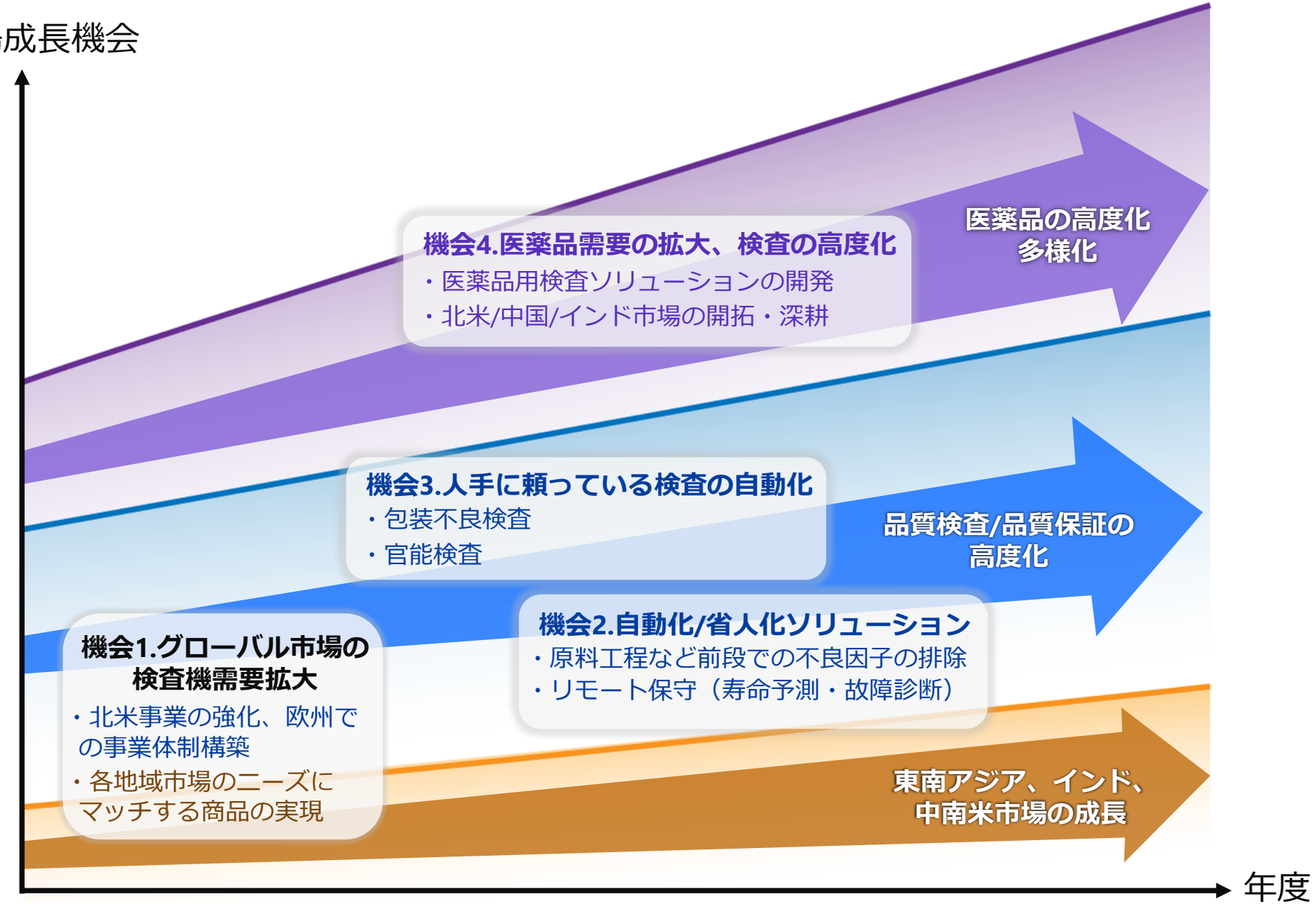
市場ドライバー
安全への高い関心
新興国の医療改善
高齢者人口の増加

食品：先進諸国市場
欧米・日本・中国

市場ドライバー
食品ロス削減・省エネ
ブランドリスク増大
労働人口の減少・少子化

食品：新興国市場
東南アジア・インド
・中南米

市場ドライバー
労働人口の増加、経済発展



Copyright© ANRITSU CORPORATION

4-3. PQA事業：PQA市場の現状と見通し

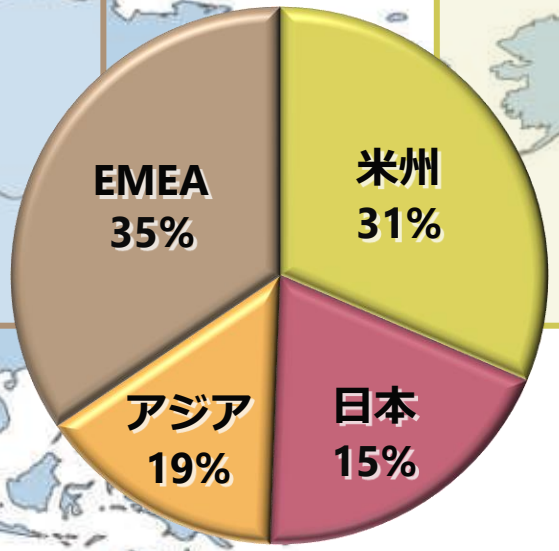
Anritsu
Advancing beyond

EMEA

食品ロス削減への対応

米州

食品ロス削減への対応
自動化・省人化の要請



アジア

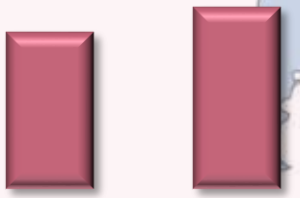
加工食品の需要拡大
人件費の高騰

世界市場規模 3,200億円
（2026年、当社推定）

2026年までの
平均成長率5%見込み

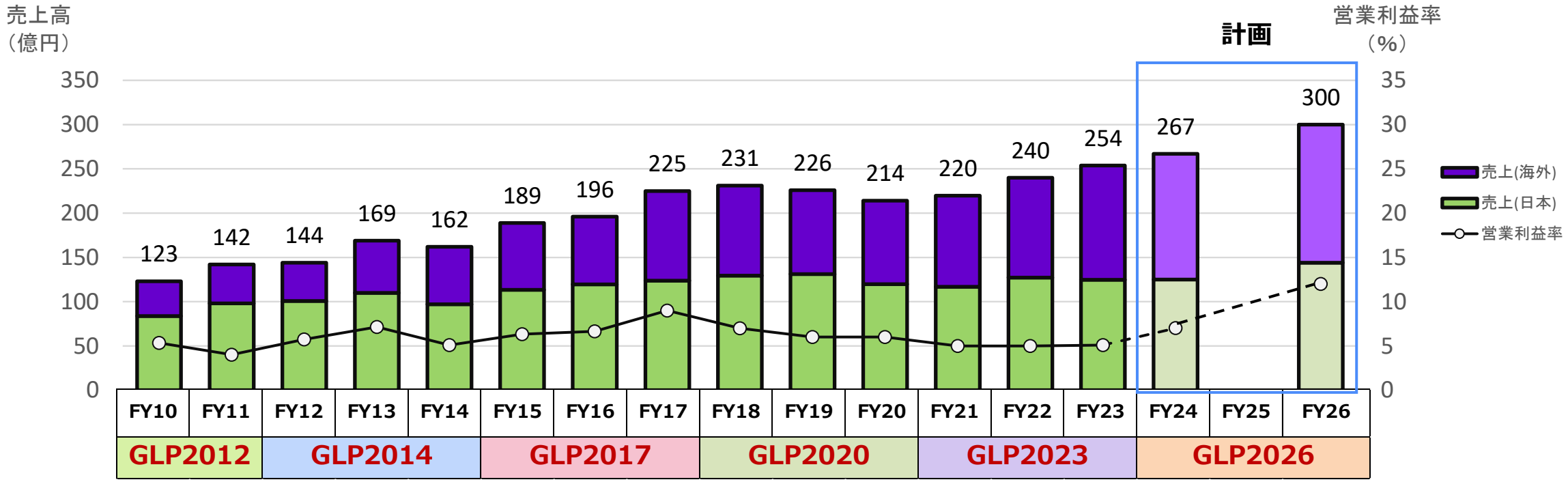
日本

食品ロス削減への対応
自動化・省人化の要請



Copyright© ANRITSU CORPORATION

4-4. 成長するPQA事業



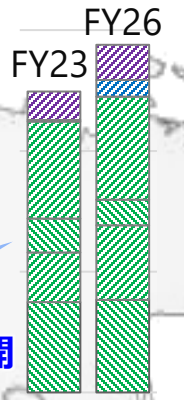
市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査機をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズにこたえる高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合　メトラートレド、イシダ、マレル

Copyright© ANRITSU CORPORATION

4-5. PQA事業：GLP2026　グローバル事業展開

日本

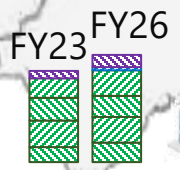


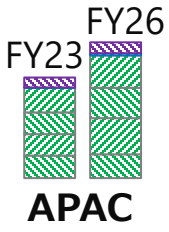
←医薬品事業:新製品で攻略
←新事業：日本と北米でスタート
←既存事業
モデルチェンジで高シエア維持

医薬品市場開拓

新事業を展開

アジア





GKA実績を
アジアへ展開

中国・APAC

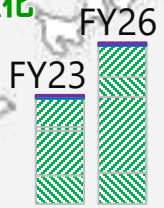
既存事業
・アジア地域に適合する製品を提供
・販売店と連携した現地対応力の強化

医薬品市場開拓

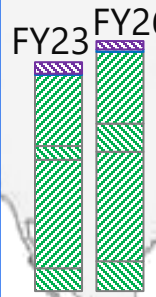
EMEA・米州

EMEA

既存事業
・X線検査機を核に高性能な製品でブランド確立
・販売店と連携した現地対応力の強化



GKA実績を
欧州へ展開

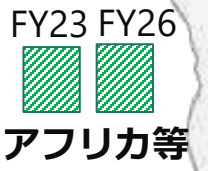


米州

医薬品事業：販売チャネル開拓
新事業：展開の起点に
既存事業
・X線検査機を核に重量選別機、金属検出機のシェア拡大
・現地開発、現地対応力の強化

既存事業
・中南米市場のGKA開拓

人口増による食品製造市場の拡大に対応した事業体制の構築



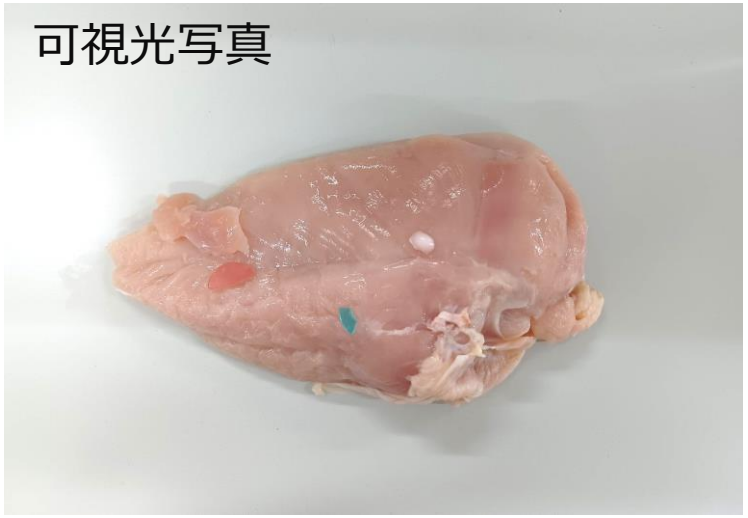
※GKA:グローバルキーアカウント　グローバルに事業を展開する重要顧客
※既存事業：重量選別機やX線検査機など既存の品質検査機器事業
　新事業　：既存事業に追加する新たな品質保証ソリューション事業
※地域毎の棒グラフはFY2023→FY2026の売上イメージ

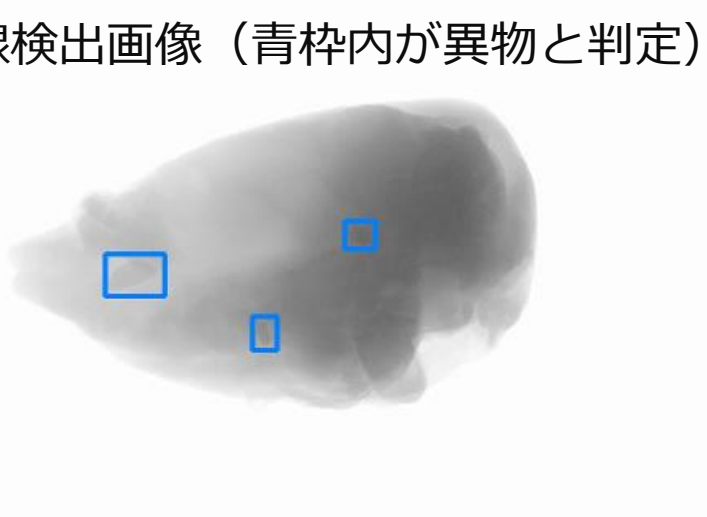
Copyright© ANRITSU CORPORATION

4-6. 食肉検査市場向けソリューション

AI搭載デュアルエナジーセンサX線検査機
KXH7534ASGCD

- 高精細なX線撮像能力を持つX線検査機「XR75シリーズHRタイプ」に、異物検出用に開発した**深層学習型AIを搭載**
- 従来のX線では検査が難しかった「**鶏肉の中の軟骨**」や「**重なりのあるソーセージの折れ**」などの検査が可能
- 原材料の受け入れ時や加工工程で異常を排除することで**生産性の向上**と**食品ロスの削減**に貢献





鶏肉に付着した骨や樹脂（実験用ダミー）の検出例

Copyright© ANRITSU CORPORATION

4-7. 錠剤の成分量を全数検査するNIR検査装置の紹介

NIR錠剤検査装置

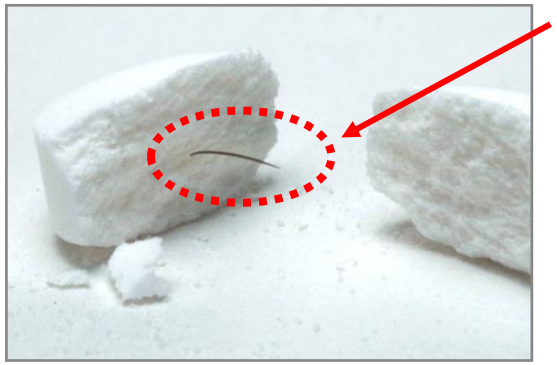
開発中

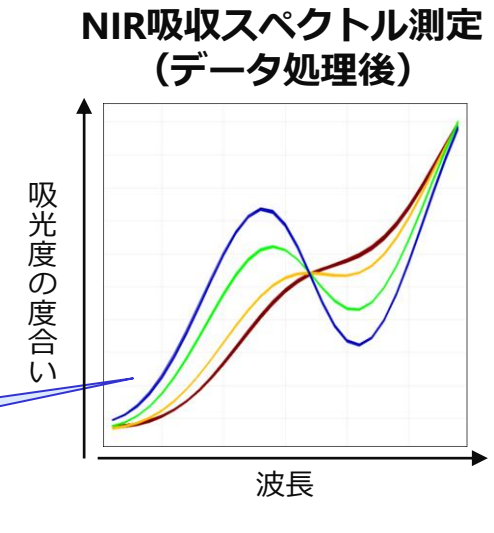
NIR吸収スペクトル測定法により、錠剤内部を全数（25万錠/時）透過測定します。
生産品質のコントロールや、スケールアップ時のプロセス評価に適しています。

■**成分量分析：**非破壊で錠剤の成分量を検査します。

■**クロスコンタミネーションの防止：**異錠剤の混入を検出し、
成分が異なる錠剤を排除します。

■**異物検査：**錠剤内部に混入した毛髪や虫などの有機由来の
異物を検出できます。





Copyright© ANRITSU CORPORATION

5. 環境計測事業

Copyright© ANRITSU CORPORATION

EV/電池試験事業

高砂製作所の電源事業を核に成長を加速

《重点事業領域》

EVを中心としたモビリティの電動化と周辺市場

《事業戦略》

高砂製作所の電力制御技術と市場実績を基盤にソリューション展開を拡大

《主な施策》

- 電源システムのフレキシブル性を強化し多様化する試験ニーズへの対応
- EV/電池評価市場から周辺市場へのソリューション適用範囲の拡大
- EV普及で拡大する周辺デバイス市場に向けた製品ラインナップの拡大
- 国内事業で培った技術とノウハウを生かした海外市場開拓
- グループ生産拠点の連携強化による製品供給能力の増強

Copyright© ANRITSU CORPORATION

産業DX事業

「つなぐ技術」で製造現場の効率化/省人化を実現

《重点事業領域》

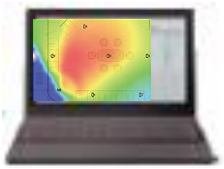
人手不足が深刻化する「ものつくり」の現場

《事業戦略》

通信と映像の技術で現場の安全性と生産性向上に貢献するソリューションを提供

《主な施策》

- 現場発生イベントと映像情報を連動させる “AccelVision” の投入
- ローカル5Gの導入やソリューション共創の場となる “5G LAB” の運営



Copyright© ANRITSU CORPORATION

社会インフラレジリエンス事業

社会の安全・安心を守る通信インフラの次世代化に貢献

《重点事業領域》

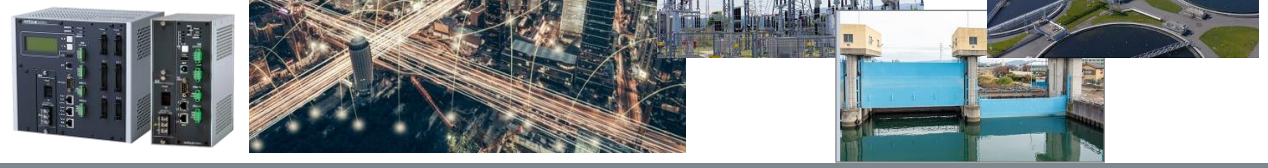
品質と安定性が要求される公共性の高い情報通信システム市場

《事業戦略》

高い技術とノウハウで通信インフラ設備の円滑な次世代化に貢献

《主な施策》

- 社会インフラ保全ネットワークのフルIP化ソリューションの提供
- 自然災害への備えを支援する分散型遠方監視システムの開発
- クラウドに対応した帯域制御ソリューションの投入



Copyright© ANRITSU CORPORATION

6. 2025年3月期 第3四半期 連結決算概要

Copyright© ANRITSU CORPORATION

6-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

前年同期比　受注は2%増、売上は４%増、営業利益は24%増の増収増益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)	前第３四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第３四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	800	819	19	2%
売上高	778	808	30	4%
営業利益	52	64	12	24%
税引前利益	56	72	16	29%
当期利益	39	49	10	25%
当期包括利益	68	64	△ 4	△5%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

Copyright© ANRITSU CORPORATION

6-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

Anritsu Advancing beyond

前年同期比で、通信計測は減益、PQA、環境計測はともに増収増益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		前第３四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第３四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	509	509	0	0%
	営業利益	49	44	△ 5	△9%
PQA	売上高	177	198	21	12%
	営業利益	7	16	9	126%
環境計測	売上高	49	57	8	17%
	営業利益	0	4	4	-
その他	売上高	43	44	1	2%
	営業利益	4	11	7	146%
調整額	営業利益	△ 9	△ 11	△ 2	-
合計	売上高	778	808	30	4%
	営業利益	52	64	12	24%

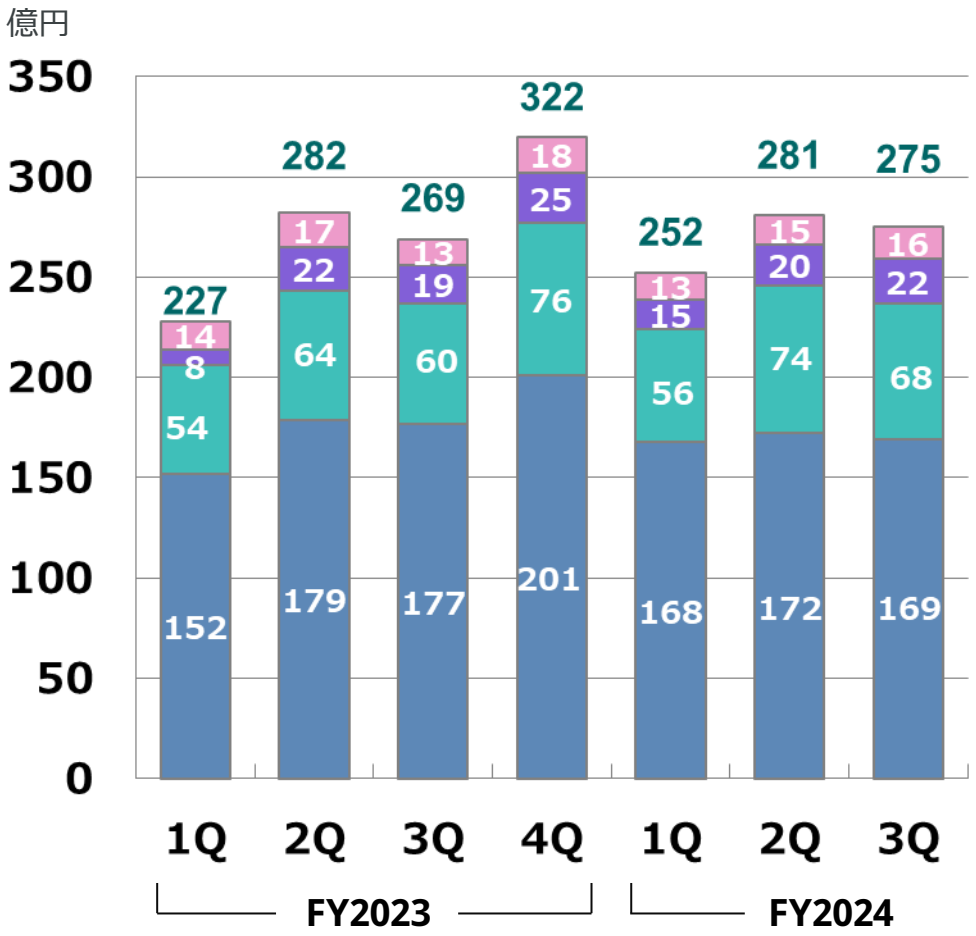
（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）
（注2）調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

Copyright© ANRITSU CORPORATION

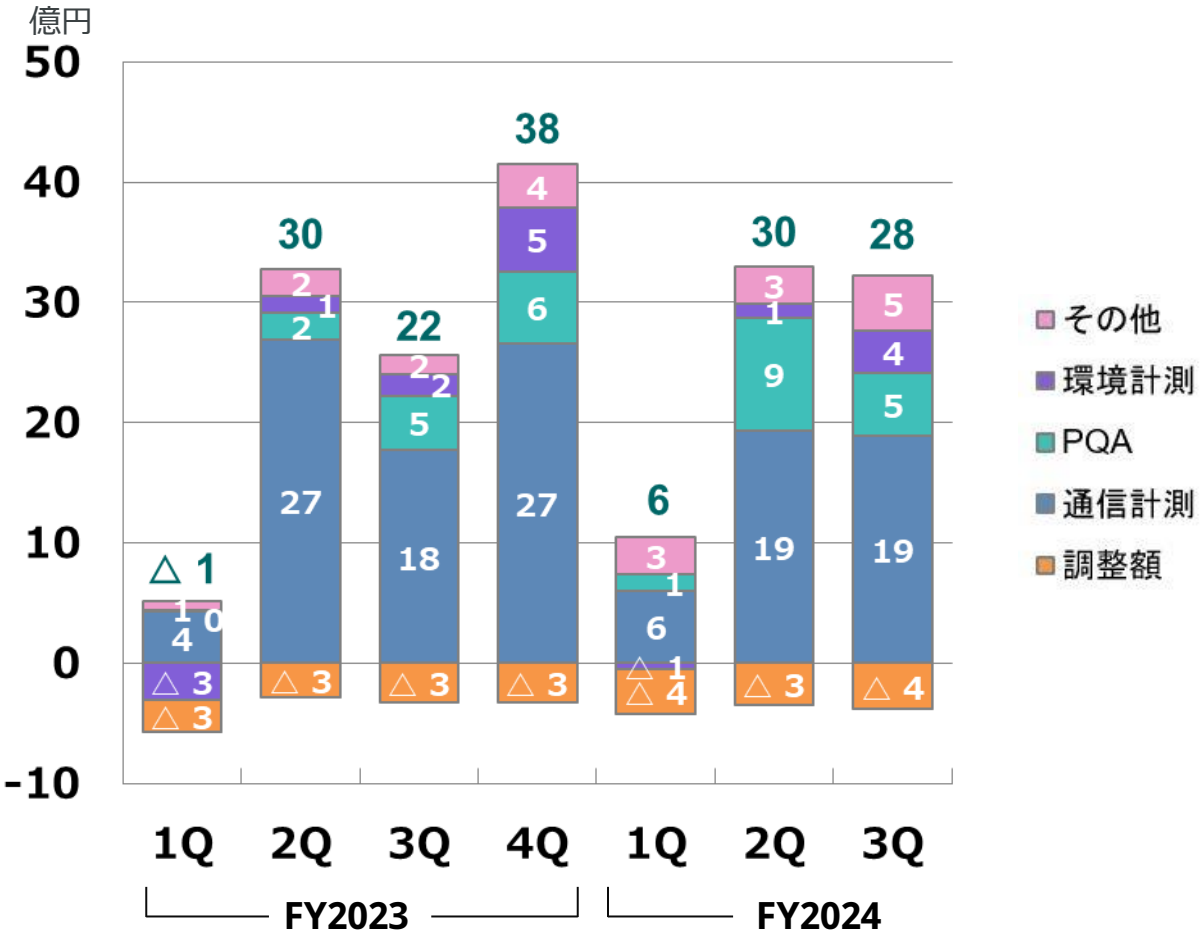
6-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

Anritsu Advancing beyond

3Q(10-12月)営業利益率：連結 10.3%、通信計測 11.2%、PQA 7.5%、環境計測 16.1%



売上高



営業利益

（注）値はそれぞれで四捨五入

Copyright© ANRITSU CORPORATION

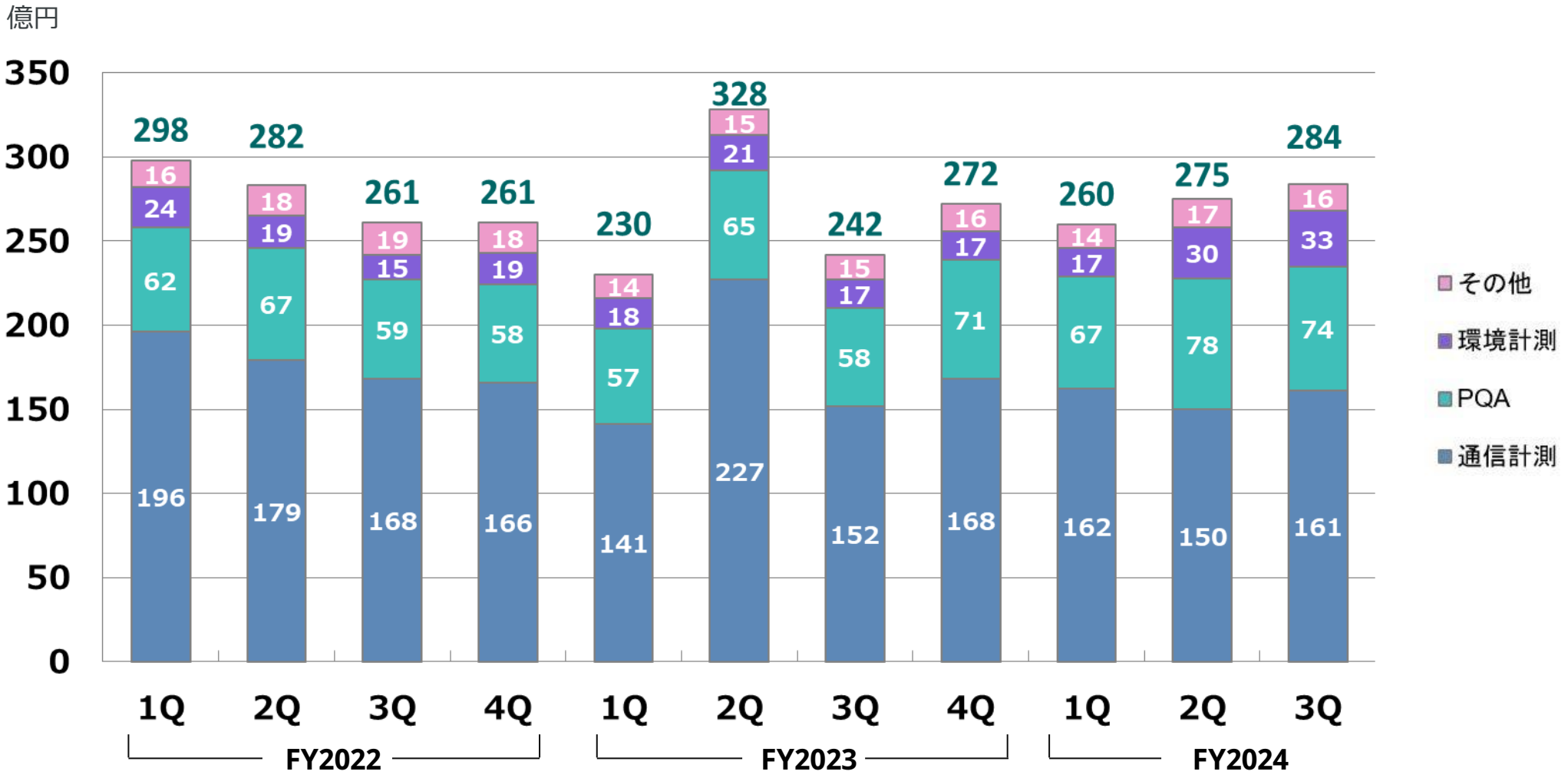
6-4. 事業別営業概況

セグメント	2025年3月期（4-12月）の状況
通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、投資への慎重姿勢が継続 固定ネットワークの高速化需要は好調	
モバイル	5G開発市場の投資は不安定も緩やかに回復傾向 5G利活用市場では自動車が好調
ネットワークインフラ	グリーンデータセンターや生成AI専用のデータセンターの構築が加速 光海底ケーブルの敷設が増加傾向
エレクトロニクス	6G基礎研究の需要が継続
アジア他・日本	中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞もデータセンター市場が好調
アメリカ	生成AI等によりデータセンター市場が好調 基地局建設・保守市場が低調
PQA：米州を中心に海外での需要が好調。国内ではインバウンド関連需要が好調	
環境計測：EV/電池向け試験装置の需要が好調	

Copyright© ANRITSU CORPORATION

6-5. 受注高推移

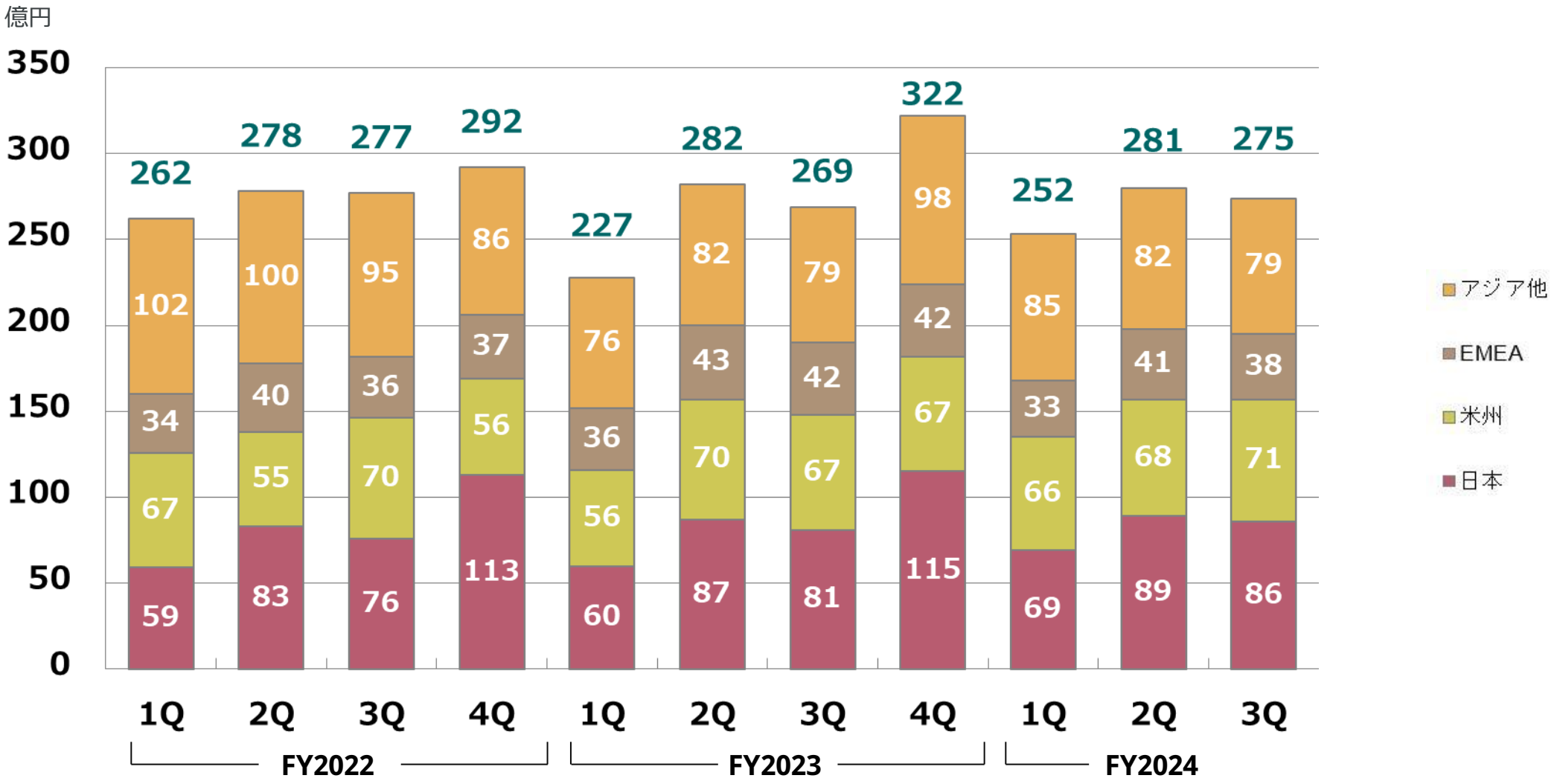
前年同期比　通信計測：6%増、PQA：27%増、環境計測：91%増



（注）値はそれぞれで四捨五入

Copyright© ANRITSU CORPORATION

6-6. 地域別売上高推移



（注）値はそれぞれで四捨五入

Copyright© ANRITSU CORPORATION

6-7. キャッシュフロー

営業CFマージン率 20.5%

FY2024（4-12月）
①営業CF：　166億円
②投資CF：　△24億円
③財務CF：　△67億円

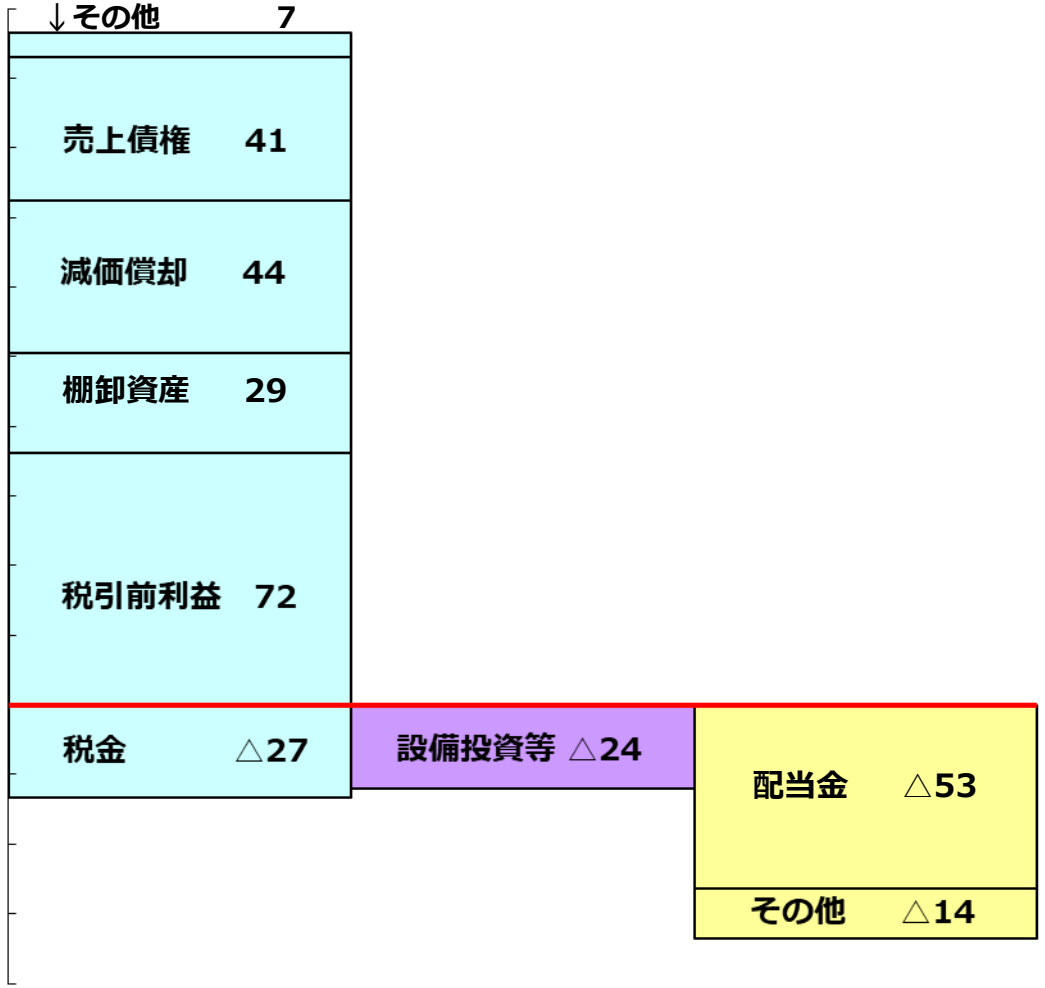
フリーキャッシュフロー
（①＋②）：　142億円

現金同等物期末残高
539億円

有利子負債高
63億円

（注）値はそれぞれで四捨五入

内訳　　(単位：億円)



Copyright© ANRITSU CORPORATION

6-8. 2025年3月期 通期業績予想（連結）

Anritsu Advancing beyond

4月25日公表値から変更なし

（単位：億円）

		2024/3期	2025/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
売上高		1,100	1,150	50	5%
営業利益		90	110	20	22%
税引前利益		100	110	10	11%
当期利益		77	83	6	8%
通信計測	売上高	710	738	28	4%
	営業利益	75	92	17	22%
PQA	売上高	254	267	13	5%
	営業利益	13	19	6	47%
環境計測	売上高	74	90	16	21%
	営業利益	5	7	2	30%
その他	売上高	61	55	△ 6	△10%
	営業利益	8	4	△ 4	△51%
調整額	営業利益	△ 12	△ 12	0	-

（参考）FY23 為替レート　：１米ドル145円、1ユーロ157円
FY24 通期予想作成時の想定為替レート：１米ドル145円、1ユーロ155円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

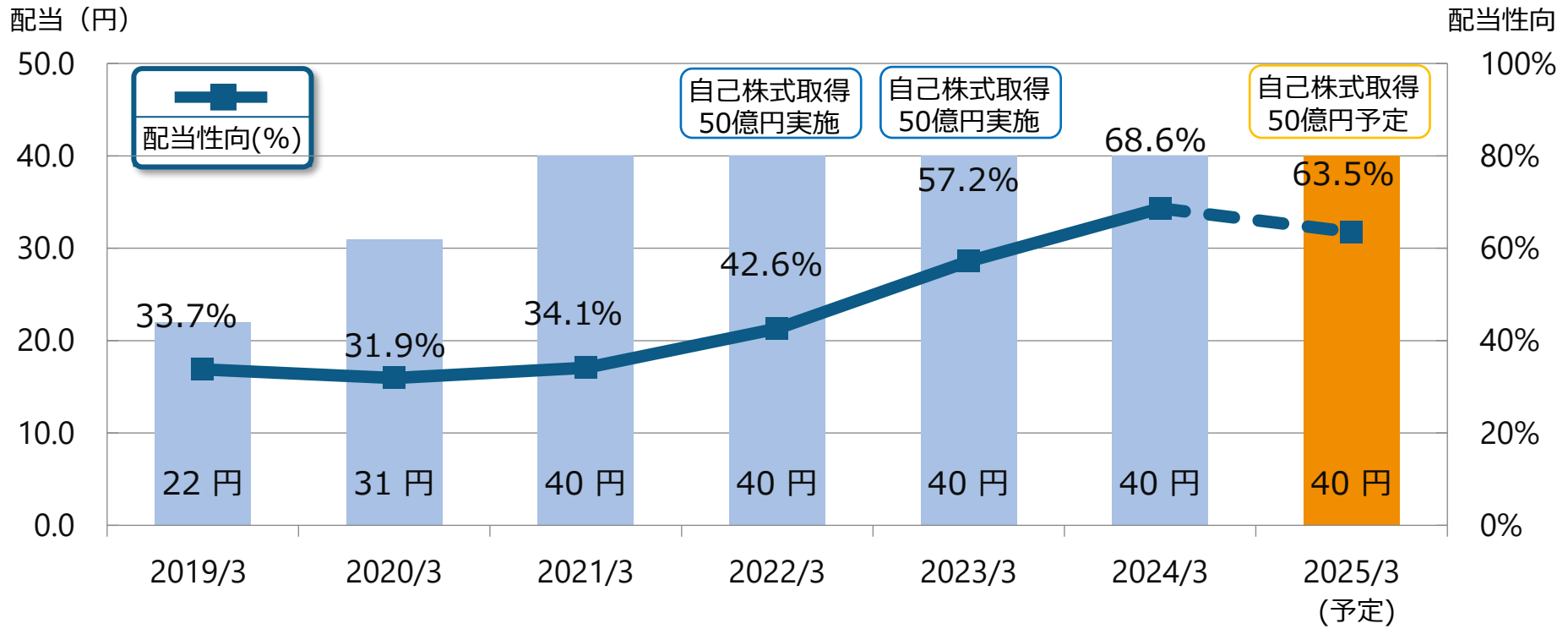
Copyright© ANRITSU CORPORATION

6-9. 自己株式取得と配当予想について

実施の理由：資本効率の向上と株主還元の一層の充実を図るため

株式の取得価額の総額：50億円

取得期間　　：2025年1月31日～2025年4月30日



3年間の総還元性向	GLP2020 (FY2018～FY2020)	GLP2023 (FY2021～FY2023)
	33.3%	87.5% (自己株式取得100億円含む)

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Appendix

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Appendix 1：サステナビリティ目標（SDGs）の結果

	KPI	GLP2023の目標	2023年度実績	結果
E 環境	● 温室効果ガス*1（Scope1+2）	2015年度比 23%削減	36.6%削減	◎
	● 温室効果ガス*1（Scope3）	2018年度比 13%削減	38.8%削減	◎
	● 自家発電比率（PGRE 30*2）	13%以上（2018年度電力消費量を基準）	10.4% （参考：2020年度実績 3.3%）	△
S 社会	● 女性の活躍推進	女性管理職比率15%以上	12.1%（グローバル、2024年4月1日） （参考：2021年3月末実績 10.8%）	△
	● 高齢者活躍推進	70歳までの雇用及び新処遇制度確立	70歳までの雇用及び新処遇制度運用継続	○
	● 障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率2.3%達成	障がい者雇用率2.66%（2024年3月末）	○
	● サプライチェーンDDの強化	3年累積10社以上	3年累計で20社実施（2023年度は8社実施）	◎
	● CSR調達に係るサプライヤへの情報発信2回/年以上、教育1回/年以上		情報発信3回、教育2回実施 （3年累計で、情報発信9回、教育4回実施）	○
G ガバナンス	● 取締役会の多様性の推進	社外取締役比率50%以上	社外取締役比率50%継続（10人中5人）	○
	● 海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が統制自己評価（CSA）の基準を満たす	全ての項目で基準を満たす会社：90% （項目数：181）	△

*1 温室効果ガスに関するGLP2023の目標値及び実績値に関しては、2022年1月に当社の子会社となった高砂製作所の数値は含みません。

*2 PGREは、Private Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Appendix 2：用語集

3GPP :	3rd Generation Partnership Project
5G NR :	5th Generation New Radio access technology
ADAS:	Advanced Driver-Assistance Systems
APN :	All-Photonics Network
AR :	Augmented Reality
BERTS :	Bit Error Rate Testers
CPE :	Customer Premises Equipment
EM:	Environmental Measurement
EMEA :	Europe, Middle East, Africa
EV :	Electric Vehicle
GLP :	Global Long-term management Plan
IOWN :	Innovative Optical and Wireless Network
ML :	Machine Learning
NB-IoT:	Narrow Band-IoT
NCAP:	New Car Assessment Programme
NG-eCall :	Next Generation emergency Call
NIR :	Near Infrared Rays
NTN :	Non-Terrestrial Network
NW :	Network
O-RAN :	Open Radio Access Network
OSFP:	Octal Small Form-factor Pluggable
OTDR :	Optical Time Domain Reflectometer
PCIe :	Peripheral Component Interconnect express
PGRE 30:	Private Generation of Renewable Energy
PQA :	Products Quality Assurance
QSFP:	Quad Small Form-factor Pluggable
RedCap :	Reduced Capability
SDV :	Software-Defined Vehicle
SOA:	Semiconductor Optical Amplifier
UAM:	Urban Air Mobility
UAV:	Unmanned Aerial Vehicle
T&M:	Test and Measurement
TCU :	Telematics Control Unit
VR :	Virtual Reality
V-RAN :	Virtual Radio Access Network
WRC :	World Radiocommunication Conference

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Anritsu
Advancing beyond